

抄 録

結核専門雑誌

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose Bd. 85, 4 Heft. 1934.

急性結核性敗血症及び結核菌ノ毒力問題ニ就テ
Lazar Jakobowicz (Zürich): Sepsis tuberculosa acuta. Beiträge zum Virulenzproblem der Tuberkelbacillen.

著者ハ腸窒扶斯様ノ症候ヲ表ハシ、5週間高イ弛張熱ヲ出シテ死亡セル54歳ノ女ノ急性結核性敗血症ニ就テ解剖セルニ、消化管ニ新シイ感染部位アリテ、腸間膜淋巴腺ハ乾酪變性及ビ軟化ヲ來シ、肺臟、脾臟、肝臟、腎臟、及ビ骨髓等ニハ何レモ特有ナ肉芽組織ハ認めラザルモ、多數ノ結核菌ヲ有シ所々ニ壞疽ニ陥レル部位アリ、Landouzy氏ニヨレバ腸窒扶斯菌ニヨル敗血症ト同様結核菌ニヨルモノモ血行性デアツテ、發病ノ第1週間ニ於テハ Scholz氏ノ急性結核性敗血症モ、Renne氏ノ亞急性結核性敗血症モ腸窒扶斯ノ夫レト臨牀上似テリ。

急性結核性敗血症ノ成因ハ、其ノ人ノ體質ノ如何カ關係アルハ論ヲ待タネド結核菌ノ毒素即チ毒力ノ相違ガ與ツテ力アリ。

結核菌ハ凡テカ同シ毒力ニ非ズシテ、感染シテカラノ經過中稀ニハ非常ニ毒力ノ強イ菌ニヨルモノヲ區別シ得ルナリ、是等ハ動物實驗ニヨツテ證明シ得ルナリ。凡テ傳染病ハ臟器ノ抵抗力ニヨツテ、毒力ヲ測定シ得ル故斯カル點ヨリ考ヘレバ抵抗力ヤ感受性ハ價値大ナリ。
(東京市療 三神抄)

肺竝ニ喉頭結核ノ Solganal 療法ニ就テ

Alexander Tzankoff (Agra-Schweiz): Beitrag zur Behandlung der Lungen- und Kehlkopftuberkulose mit Solganal.

肺竝ニ喉頭結核患者ノ内、増殖性又ハ増殖性ニテ硬化性患者19例新シイ浸潤ノ相當廣範ニ擴レルモノ1例増殖性ニテ浸出型ノモノ1例、氣管枝型ノモノ1例ヲ Solganal ニテ治療セルニ、増殖性ノモノ19例ノ内7例ハ經過良ク、1例ハ惡化

シ、9例ハ變化ナカリキ。新シイ浸潤ノアル5例ハ奏效シ、1例ハ變化ナカリキ。

1例ノ増殖性、硬化性ノモノハ惡化シ、

1例ノ氣管枝型ノモノハ變化ナカリキ。

Solganal ハ一般ニ使用サレテル量ハ多少多過ギテ0.0005ノ如ク少量ヨリ初メテ、間隔ハ7日以上ガ可ナラン。

兎モ角モ金製劑ハ結核ニ對シ有效藥ト思ハレルガ、其ノ作用ハ今猶不明ナリ。臨牀上ノ材料ヨリ考ヘ其ノ使用量ヲ定ムルニハ、猶相當ノ考慮ヲ要ス。

(東京市療 三神抄)

血行性喉頭結核

Karl Menzel (Bokau): Haematogene Kehlkopftuberkulose.

喉頭結核ノ大多數ハ接觸感染ニヨリ、極メテ少數ハ血行性轉移ニヨル、血行性ノモノハ血行性肺結核ヨリ來ル事ハ明ナリ。

著者ハ72例ノ喉頭結核ニ就テ其ノ特有ノ發生部位ト經過ヲ次ノ様ニ分ケタ。

多クハ會厭軟骨、披裂會厭軟骨ノ皺襞及ビ假聲門帶等喉頭ノ入口ヲ形造ツテル部分ニテ、喉頭ノ内部ノ侵サレル事ハ稀テアル。慢性ノ經過ヲトルモノハ著シク腫脹發赤シテモ割合ニ苦痛少ナシ、急性ノモノハ潰瘍ヲ形成シテ苦シム、若シ發生部位ガ深部カラ會厭軟骨ニ上昇シテ喉頭ノ周圍カラ延イテハ軟口蓋、懸壜垂、扁桃腺、咽頭後壁ニ及ベバ經過ハ不良ナリ。

血行性ニ來ル喉頭結核ハ第一ハ縁テアル、次ニ菌ノ活動性ノ如何、他ニ新シイ轉移ノ有無、安靜ノ程度等ニヨツテ増大スル、喉頭結核ノ自然ノ經過ハ肺結核ノ症狀ト並行スルガ普通ナリ、男性ニ多ク而モ40歳臺ニ多シ。 $\frac{2}{3}$ ハ比較的速ニ死亡スル、根治ハ望マレズ、喉頭結核ハ主ニ増殖型又ハ浸出型ナル故安靜ニスルヲ要ス。
(東京市療 三神抄)

結核ノ一般機能的病理

S. Bergel (Berlin): Zur allgemeinen funktionellen Pathogenese der Tuberkulose.

1 回以上感染セル患者ハ抗毒素ガ人體内ニ生シ、脂肪ヲ多ク有スル結核菌ニ對シ防衛作用トシテ、淋巴球及ビ淋巴球ヲ作ル臟器殊ニ淋巴腺ヲ刺戟シテ、結核菌ノ成分テアル Lipoid ニ對スル自然ノ武器ヲ作ル、次ニ多核白血球ヲ増シテ之ノ有スル酵素ニヨツテ蛋白質ヲ溶解セントスル作用アリ。(東京市療 三神壽抄)

結核病竈ノ空洞ニ於ケル癌ノ發生ニ就テノ研究

Carl Renner (Universität Breslau): Untersuchungen über Carcinomentstehung in einer tuberkulösen Kaverne.

癌ガ凡テ刺戟説ニ從ツテ生ズル事ハ明テアル、皮膚結核ニ癌ガ生ズルト同様氣管枝擴張症ヤ結核ニ原發性ニ發生スル事モ考ヘ得ル。

之ニ記載スル例ハ 56 歳ノ男ニテ 1931 年 4 月ニ肺結核ト診斷確定シテ翌年死亡シテ Silberberg 氏ニヨリ解剖セルニ右肺ニ於ケル原發性癌ナリキ、組織學上腫瘍ノアル點ノ周圍ハ空洞ヲナシ此ノ點ニ結核菌ヲ證明シ得タリ。

肺臟癌ノ發生スル部位ヲ見ルニ、1) 氣管枝ノ上皮細胞、2) 粘膜下ノ粘液腺ノ上皮、3) 肺實質テアル、第一ノ氣管枝上皮カラ生ズルモノハ、圓錐細胞癌ニテ、又平面上皮細胞ノ轉移増殖ニヨルモノモアル。

第二ノ粘液腺ヨリ生ズルモノハ肺腺又ハ「アテナイド」ヲナシ圓錐細胞癌ガ多イ。

第三ノ肺實質ヨリ生ズルモノハ小細胞型ノ癌ガ多イ、故ニ肉腫ト誤リ易シ。

本例ハ病的變化ヨリ生ゼン原發性平面上皮細胞癌ニテ同時ニ肺結核ヲ有セシガ、此ノ兩者間ノ因果關係ハ詳ナラズ。(東京市療 三神壽抄)

氣胸竝ニ油胸後ノ腦栓塞

Carl Renner (Universität Breslau): Einblie ins Hirn nach Pneumo- und Oleothorax.

肺結核ノ 19 歳ノ女ヲ右側人工氣胸ニテ治療セルニ、第 1 回、第 2 回トモ空氣ガ充分這入ラズ、第 3 回目ニ細イ針ニテ局所麻醉ヲナシテ後僅ニ空氣ヲ入レ針ヲ抜クト同時ニ意識不明トナリ、續イテ臨牀上右側腦ノ空氣栓塞ノ症狀ヲ來シテ同夜死亡セリ、死ノ直後解剖セルニ、空氣栓塞ノ腦實質内ニ出血部位アリ、Brieger 氏ハ一萬例ノ人工氣胸ニテ一度モ間違ハ無カツタガ、

油胸ニテ一度失敗シタ、之ハ 18 歳ノ女ニテ 100cc ノ油胸ノ後突然虚脱ニ陥リ、腦症狀甚シク 12 時間後ニ死亡シタ、解剖ニテ腦ノ脂肪栓塞ナリキ。

(東京市療 三神壽抄)

Jacobaeus 氏胸廓内肋膜剝離手術ヲ施行スルニ使用スル麻醉劑ニ就テ

Anton Sattler (Wien): Über eine in Narkose ausgeführte endothorakale Pleurolyse nach Jacobaeus. 局所麻醉ノミニヨツテ Jacobaeus 氏ノ胸廓内癒着肋膜剝離手術ヲスルノ不可能ナル事ト、嚴重ナル意味ニ於ケル麻醉劑ノ適、不適ヲ定ムル事ハナカナカ困難テアル、斯ルガ故ニ、氣管ニ特別ノ刺戟ヲ與フル瓦斯吸入殊ニ Äther ノ如ク爆發性ニ富ミ、且ツ又刺戟性ノ強イモノハ不適當テアル、結局 Evipan ノ筋肉内注射ガ最も目的ニ合フラシイ。

併シ手術部位ノ局所麻醉無シテハ不可能テアル、Evipan ノ麻醉ハ充分ニサネバナラヌガ、餘リ深過ギルト深呼吸ヲ始メル、斯クナレバ萎縮シタ肺臟ハ膨脹シテ繫索ハ弛緩シテ、視界ニ入り難クナル(見難クナル)、夫レ故ニ可成深イ麻醉ハ避ケネバナラヌ、吾々ノ例ニテハ Evipan 麻醉不十分ノ折少量ノ吸入麻醉ヲ竝用シテ「チアノーゼ」其他何等副作用ヲ見タル事ナク、手術中顔色ガ悪クナツタリスル者ニハ酸素ヲ多ク吸入サセレバ直ニ恢復スル、此ノ麻醉ハ手術ガ終ツテ皮膚縫合ガ濟メバ中止スル。(東京市療 三神壽抄)

人工氣胸術ニ於ケル瓦斯ノ瀰散ニ就テ

Frisch und Schneiderbauer (Wien): Zur Frage der Gasdiffusion beim künstlichen Pneumothorax

人工氣胸術施行中ノ患者及ビ動物實驗ニテ用ヒタ瓦斯ガ如何ニ肺肋膜ヲ通過スルカラ見ルニ、空氣又ハ酸素ヲ注入シタ後モ基礎代謝ニハ變化ナシ。之ニ反シテ炭酸瓦斯ヲ注入スル時ハ約 30% ノ上昇アル事ハ明ナリ。

純粹ノ酸素ノ吸入ノ方が、酸素炭酸瓦斯ノ混合氣體ノ吸入ヨリモ疑ナク肋膜瀰散ガ上昇スル、併シ此ノ上昇ハ決シテ肺肋膜肥厚ニヨツテ減ズル事ナシ、又水素 70% ト酸素 30% ヲ呼吸スレバ肋膜腔内ニ水素ヲ多數ニ證明スル。

肋膜腔内ニ注入セル瓦斯ノ運命ヲ見ルニ、人ニテハ詳ナラザルモ動物ニテハ、酸素ヨリモ水素ノ方が早く肺胞内ニ出ル事明ナリ。

犬ニ就テ見ルニ、窒素、酸素、炭酸瓦斯ノ間ノ吸收、

瀰散ハ氣胸、氣腹兩者同様ニシテ、甚シキ差違アリ。
(東京市療 三神壽抄)

人工氣胸患者ノ血球沈降速度反應及ビ沈降速度
反應ニ及ボス外部ヨリノ條件ノ問題ニ就テ

Harald Lotze Hamburg-Eppendorf: Blutkörperchensenkungsreaktion bei Pneumothorax artificialis. Zugleich ein Beitrag zur Frage der Beeinflussung der Senkungsreaktion durch äußere Faktoren.

赤血球沈降速度ニ就テノ文獻ハ多イガ、之ト人工氣胸
術トノ關係ニ就テハ餘リ知ラス、著者ハ沈降速度ニヨ
ツテ、人工氣胸ノ適、不適及ビ豫後ヲモ知ルヲ得ルト
云フ、即チ人工氣胸ヲ施行シテ遅クナル様ナモノハ
引き續イテ空氣ヲ入レルニ適スト云フ。

沈降速度ハ同一人ニテ日差約 10%アリ、又朝夕ノ差
モ 10%アリ。Mygränin, Pyramidon ハ非常ニ遅クス
ル。
(東京市療 三神壽抄)

結核患者ノ含水炭素新陳代謝

R. J. Drabkina: Der Kohlenhydratstoffwechsel bei Tuberkulösen.

凡テノ臟器ニ結核性中毒ガアル様ニ含水炭素新陳代
謝ニ與ル臟器モ亦影響ヲ受ケル、殊ニ患者ノ血糖値ニ
甚シイ變化ヲ來ス。

之ニ就テ著者ハ Glykose(100 g 飲用)負荷試験ヲ行ツ
テ、過血糖ヲ見ルニ、一般ニ「インシュリン」系統ノ臟
器ノ機能減退ヲ證明スル。早朝空腹時ノ血糖値ノ動
搖ハ結核ノ第一期及ビ第二期ノ中頃迄ハ殆ソド正常
値ヲ示ス。

第二期ノ末期カラ第三期ニ及ベバ過血糖ノ方ニ傾ク。
Glykose 負荷試験ニテハ、重症ニナルニ從ツテ最高
血糖ニ達スル時間ガ遅ク而モ正常値ニ歸ヘルニ健康
者ニ比シテ一時間遅シ、此ノ如ク結核ノ場合ノ機能的
過血糖ハ、肝臟、脾臟、副腎、中樞竝ニ植物性神經等

ノ所謂「インシュリン」系統ノ機能不全ノ結果含水炭素
ニ對スル力ノ減少デアル。

Adrenalin ヲ使用スレバ、結核患者ハ肝臟ノ Glykogen
蓄積作用不完全ノ爲ニ、肝臟ノ Glykogen ヲ酸化シ
テ Glykose トシテ血中ニ移出スル量少ナク、健康人
ニ比シテ過血糖ノ上昇惡シ。

Insulin ヲ使用ハレバ結核患者ハ「アドレナリン」系統
ニ缺陷アルヲ證明スル。
(東京市療三神壽抄)

血球沈降速度測定ガ肺結核患者ノ診斷豫後ニ及
ボス價值ニ就テ

Günther Thier (Rheinland Heilstätte): Über den
Wert der Bestimmung der Blutkörperchensenkungs-
geschwindigkeit für die Diagnosen- und Prognosen-
stellung bei der Lungentuberkulose.

著者ハ 5145 例ノ肺結核患者ニ就テ赤血球沈降速度ヲ
測定シテ次ノ結果ヲ報告セリ、即チ硬化性ノモノ、内
85%、硬化性ニテ空洞ヲ有スル者ノ内 47%、硬化性増
殖性ノ者ノ内 68.3%、増殖性ノ者ノ内 42.3%ハ 1 時
間 10 mm 以内ノ通常値ナリ(normal-und grenz wert)

他ノ型ノ者ハ多少ノ別アルモ沈降速度ハ皆速ナリ。
又別ニ開放性結核ノ 25%ハ沈降速度通常値ナリ、又

500 例ハ空洞ヲ有スルニモ關ラズ通常値ナリ。
凡テノ型ノ患者ノ内 600 例ハ沈降速度ト病氣ノ消長
ト併行セリ。

全測定ハ 2 年 3 ヶ月ニ及ンダ故病氣ノ豫後モ知り得
タ。

沈降速度 1 時間 51 mm 以上ノ者ノ内 75%、31—50 mm
ノ者ノ内 41%、21—30 mm ノ者ノ内 20%、11—20
mm ノ者ノ内 16%ハ此ノ年月中ニ死亡シタ。沈降速
度 11 mm 以上ナルモ治療中 10 mm 以下ノ通常値ニ返
ヘツタ患者ハ良好ノ経過ヲトレリ。即チ手術可能ノ
患者ノ場合ハ此ノ例ニ多シ。(東京市療 三神壽抄)

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose 86. Bd. 1. Ht. 1935

Kirchner 氏液體培地ヲ使用シテ肺結核患者ノ血
液ヨリノ結核菌ノ培養證明

T. Uesaka: Kultureller Nachweis von Tuberkelbac-
illen aus dem Blute von Lungentuberkulösen beim
Gebrauch des flüssigen Nährbodens nach Kirchner.

Kirchner ノ培地ニハ二種 アツテハ „Sy-Ser“ ト
„Minasser“ ニ分チ後者ハ Glycerin ヲ含有シナイノ
ガ異ツテ居ル。Kirchner ハ „Sy-Ser“ ハ牛型菌培

養ニ適シ 12 日目ニハヨク發育スルガ „Sy-Ser“ 中ニ
生ジタ菌ハ „Minasser“ 中ニハ生ツナイト云フ。

著者ハ溜水 20 cc ヲ患者ノ血液 5 cc ト混ジテ翌日マテ
放置シ分離シタ Fibrinmasse ヲ遠心分離スル。次テ
液狀培地ニ移スカ Fibrinmasse ヲ溜水ヲ 3—4 回洗滌
セバ潤濁ヲ減ジ得此方法ハ頗ル好適デアルト (Iibuchi
法)著者ハ肺結核患者例 144 ヲ 200 回液内培養ヲ行
ツタカ内 83 人ノハ Löwenstein 氏培地ニ培養試験ヲ

シ中等症が多かつたが 3 例シカ陽性ヲ呈シナかつた。著者ノ結論ハ次ノ如クデアル。1) Kirchmer 培地ハ結核菌培養ニハ適シテ居ル。2) 本培養液ト Löwenstein 培地ヲ以テ肺結核患者ノ流血中ノ結核菌ヲ證明シタガ陽性例ハ少ク肺結核ノ菌血症ハ一過性デアルコトハ疑ナイコトヲ示シタ。3) 若同一患者カラ繰返シ長期間採血培養スルナラバ菌血症ハモット屢々アルコトヲ知ルデアラウ。4) 血中ニ菌陽性デアツタ 2 例ハ肺浸潤兼腹膜炎ノ輕症者デアツタ。(東京市療 寺尾抄)

肺結核ノ萎縮療法ノ十年間ノ經驗

Nikolaus Tällyai-Roth; Zehn Jahre Erfahrungen in der Kollapstherapie der Lungentuberkulose.

著者ハ 10 年間ニ 16—20 歳ノ女 567 人ニ就テ色々ナ肺萎縮療法ヲ行ヒ種々ノ角度カラ其經過ヲ觀察シタ結果ハ總例ニ於テ有效デアツタガ他ノ療法ニヨリ Prozess カ擴ガツタ場合ニハ效果ハ望メナイ。自然治療ハ不確テ制限サレテ居ルカラ算入デキナイ。人工氣胸療法ト胸外成形術トノ結果ハ同ジト見ルベク嚴重ナル選擇ヲナセバ Apikolyse 中 Plombierung ハ效果ガアル。Phrenicoexairese ハソレ自身トシテハ餘リ效果ガナイ。(東京市療 寺尾抄)

結核ニ於ケル補體結合反應問題

Ludwig Nékám Jr.: Zur Frage der Komplementbindung bei Tuberkulose.

著者ハ舊 Tuberkulin, Boquet-Négre, Besredka, Witebsky, 又ハ結核菌カラノ Äthylalkohol 抽出等ノ結核性抗原ノ補體結合能ヲ研究スルタメニ 446 人ト天然鼠 24 頭ニ就テ抗原反應ヲ試驗シタ。肺結核ニ於テハ Witebsky ハ 78%, Boquet-Négre ハ 53%ノ陽性率ヲ得タ是等ノ抗原ノ非特異性成績ハ最少デアアル。然シ皮膚結核例ニ於テハ此方法ハ不適當デアアル。皮膚結核テハ細胞性 Allergie カ亢進シテ居ルモノハ Pirquet 氏反應ハ強クナツテ居ル。肺及皮膚ノ病理學的病形及活動性ニ對シテ反應ハ影響サレル。病竈ノ廣サ又ハ病氣ノ經過ハ重要トナラナイ。天然鼠ニ就テノ實驗及人類結核ノ經過過程ハ Widal 法ノ如ク遞減の稀釋法ニヨリ量的ニ Anergie ノ時期迄ヲ追及シ得テ人類結核ノ豫後ニ關シテ歸納シ得ル。(東京市療 寺尾抄)

囊狀多發性結核性骨炎 (Ostitis tuberculosa multiplex Cystoides Jünglingsche Krankheit) ト他臟器系ノ結核様變化

W. Heyden: Die Ostitis tuberculosa multiplex cyst-

oides (Jünglingsche Krankheit) und die „tuberkuloiden“ Gewebsveränderungen anderer Organsysteme.

著者ハ 1928 年來ノ Jüngling 氏病ノ文獻及概説ヲナシ他ノ器管ノ結核様疾患ヲ述ベテ自家ノ 6 例ヲ詳報ス。即 1 例ハ骨、皮膚、肺、眼、淋巴腺、脾ノ 6 ヲ所ニ變化アリ肺及骨ノ結核様變化ハ X 線ニヨリ確定シ脾及淋巴腺ノモノハ結核トシテノ確實性が多かつた。唯組織學的所見ガナイタメニ立證スルコトハデキナかつた。皮膚ニ於ケルモノハ全像トシテハ尋常性狼瘡ニ一致シナイガ臨牀的及組織學的ニハ Boeck 氏 Sarkoid ニ甚ダ似テ居ル。Ulrichs 所見ニ關シテハ上氣道ニハ何等ノ變化ノナイノガ著明デアアル。カク各種ノ臟器ニ多様ノ病變カアツテモ患者ハ完全ニ作業シ得ルヲ以テ其良性ナルコトヲ知ラレル。一般ニ X 線像トシテ特有ナルハ關節腔狭小、關節穿孔、軟骨性 Ankylose ガアリ又發育障碍或ハ眞ノ骨萎縮ノ現ハレトシテ多クノ指骨短縮、懷死ニヨル皮膚穿孔、強度ノ蜂窩狀骨膨隆ヲ見ル。Tuberkulin 反應ハ 3 例ハ陰性テ 1 例ハ強陽性 1 例ハ陽性ト推察サレタ。

(東京市療 寺尾抄)

肺結核ノ體內再感染問題補遺

Martin Eltze: Ein Beitrag zur Frage der endogenen Reinfektion bei Lungentuberkulose.

一坑夫ノ數年間存シタ舊石灰化初感染竈カラ體內再感染ヲ起シタト見ルベキ活動性肺結核ノ 1 例ヲ記述ス。

(東京市療 寺尾抄)

肺結核ニ於ケル Head 氏感覺帶

Marie v. Babarczy: Headsche Zonen bei Lungentuberkulose.

感覺相異ノ廣サニ關シテハ Head ノ經驗ト同様ニ色々ナ斑狀形ニ於テ Rückensegmente II—V 稀ニハ I—VII ノ部位ニ見ラレタ。著者ハ主トシテ温、痛覺ニ就テ試驗シタモノデアアル。肺ノ狀態ト感覺相異ノ關聯ニ就テハ Head ハ Prozess カ突然起リ又ハ病竈ガヨリ擴大セル所及ビ罹患部ト健康部トガ互ニ交ツテ居ル所ニ見ラル、コトヲ擧ゲテ居ル。翻ツテ今日ノ結核病學ヲ見ルニ肺結核ハ廣サ、Prozess ノ性質ト活動性ノ 3 要約ヲ特ニ注意スルコトニナツテ居ル。サレバ著者ハ Head 氏感覺帶ト是等ノ 3 要約トノ關聯ヲ研究シテ得タル結論ハ次ノ如クデアアル。

1) 肺ノ Prozess ノ廣サト部位ノ感覺異常トノ間ニハ密接ナ關係ハナイ。著者等ハ著明ナ感覺異常ノアル初

期ノ小兒形ヲ見又ハ感覺異常ノ殆ソドナイ廣範ナ肺 Prozess ノアルヲ見タ。感覺異常ハ罹患側ノミカ又其側ガ著明ナル相異ノアルコトヲ見タ。

2) 肺ノ Prozess ノ性質ト感覺相異トノ間ニハ密接ナ關係ハナイ。然シ一般ニ滲出形ニ於テハ増殖形又ハ硬化形ニ比シテ稍屢時ニハ廣範ナ感覺相異ヲ見タ。

3 形ノ Prozesse ハ凡テ感覺異常ナシノ事ガアル。

3) 活動性ト感覺相異トノ間ニハ關聯ガアル。此關聯ナルモノハ活動性アル場合ニノミ感覺相異ガアル。然シ活動性ハ感覺相異ナシニモ有り得ル。畢竟 Head 氏感覺帶ハ活動性症徵ト考ヘラレ是ナキ時ハ活動性ニ就テハ何モ云ヘナイモノアル。(東京市療 寺尾抄)

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose Bd. 86. Ht. 2. 1935

結核ニ對スル Meinicke 血清反應知見

F. Böhm und G. Grüner: Zur Kenntnis der Meinickeschen Serumreaktion auf Tuberkulose.

著者ハ 500 人ノ患者ニ就テ Besredka, Bouquet-Négre Kabelik-Zdrzil, Witebsky-Klingenstein 等ノ抗原ニヨル補體結合反應ト Meinicke ノ MKR II ヲ抗原トシタ成績ヲ比較研究シタモノアル。其結果ニヨルト Meinicke 反應ハ結核ノ血清反應中從來ノ物ニ比シテ最良デアリ Besredka 抗原モ略々同價値ヲ示シタ。今迄ノ著者ノ經驗テハ Meinicke 反應ハ一義的ノ陽性反應ヲ示シ非特異性 Interferenz ヲ除キ現存セル結核疾患ヲ甚近クマデ之ヲ示スモノアルガ其點ヲ確證スルコトハ後日ニ讓ル。(東京市療 寺尾抄)

肺結核ニ於ケル所謂植物毒指數ノ價値

Julián Luis Garcia y Garcia-Minon: Der Wert des sogenannten phytotoxischen Index bei der Lungentuberkulose.

1922 年ニ Macht und Livingstone ハアル藥物ガ植物ノ原形質ニ毒作用ヲ及ボスガ動物性組織内ニハ何等ノ反應ヲ起サナイト云フ試驗ヲ行ツタ。其後 スペイン 學派ハ殆ソド凡テノ疾病ニ就テノ phytotoxischer Index ヲ研究シ始メ著者等ハ肺結核ニ就テ之ヲ研究シタ最初アル。其方法ハ Lupinus (ハウチハマメ)ノ根ニ對スル肺結核患者ノ血清ノ影響ヲ見ルモノデ人工培養液ノ一定量ニ人血清ヲ加ヘタモノト加ヘナイモノヲ瓶中ニ入レ Lupinus 根ヲ之ニ漬ケテ其發育スル程度ヲ比較シタルモノヲ phytotoxischer Index トシタ。即 Phytot. Ind. = $\frac{\text{試驗群ノ平均根成長} \times 100}{\text{對照群ノ平均根成長}}$ 其結論ニヨレバ、1) Phytotoxischer Index ハ肺結核ニ於テハ何等特異性診斷性價値ガナイ。2) Phytotoxischer Index ハ肺結核ニ於テハ臨牀所見、X線及諸検査成績ト共ニ行フ時豫後ニ對シテハ大ナル價値ガアル。3) Adenopathie, Corticopleuritis, serofibröse Pleuritis, chronisch fibröse Formen 即チ良性ノ患者ノ

數字ハ 42—76 (Ph. I. 正常値ハ 76) 即チ降下ヲ來ス。進展性 Käsigfibröse テハ 80—100 マテ高マリ死直前ニハ更ニ高クナル。4) Chronisch テ進展性 Prozess ノナイ患者ハ 40—76 ノ間ニアル。急性形テハ 76—85 マテ高マリ結核性惡液質ガアツテ増悪ノ時期ニ於テハ 86—92 トナリ末期ニハ 93—129 マテ高マル。ツマリ Ph. I. ハ結核病ノ重サニ直接ノ關係ガアルコトヲ云ヒ得ル。5) Ph. I. ガ 100 ヲ超ス凡テノ患者ハ死シタカ又ハ重篤ノ狀ニアル。9) 結核ノ進行期ニハ血清中ニハ Lupinus 根ノ發育ヲ強く刺戟スル未知ノ物質ガアル。7) 濃厚舊 Tuberkulin ヲ培養ニ加ヘルト Lupinus 根發育阻止ヲ來シ此作用ハ其濃度ニ比例スル。8) Ph. I. ハ同一ノ目的ヲ以テ同一血液ノ血清ヲ繰返シ行フテモ同様ナルカ又ハ甚ダ似タ成績ヲ得ラレル(總例ノ 99%ニ於テ)。9) 故ニ Phytotoxischer Index ナル名稱ハ適正デハナイ、何トナレバ Lupinus 根ノ發育研究ニヨリ毒作用ノミナラズ發育刺戟作用ガアルカラダ。ソコテ吾々ハ新シイ更ニ進歩シタ名稱ヲ付ケネバナラス。其名稱ノ中ニハ血清又ハ藥物ガ根ノ成長ニ及ボス抑制的或ハ促進的反應ヲ意味スルコトガ含マレテ居ルコトタルヲ要スル。著者等ハ其師 Pittaluga ノ付ケタ „phytopoetischer Index“ ト云フ名稱ヲ提唱スル。此名ハ兩方ノ意義ヲ有シ實ニシナイ毒性反應ニ就テハ何等觸レナイ利點ガアル。

(東京市療 寺尾抄)

肺結核ト肺癌ノ結合

Willy Brokschmidt: Die Vergesellschaftung von Lungentuberkulose mit Lungencarcinom.

著者ハ病例 4 ノ臨牀竝ニ剖見ヲ報告シ結論ニ曰ク 1) 結核ト癌トノ間ニ強力ナル拮抗性ガアルコトヲ認ムベキ何等ノ根據ガナイ。2) 結核ニヨツテ變化シタ組織ハ癌發生ニ對シテハ他ノ色々ナ病理機構ニヨツテ變化シタ組織ニ比シテ特ニ良好ナ境地トハナラナイ。3) 結核ハ癌ノ前驅性疾患トシテ考ヘラレナイ。4) 結

核ハ恐クハ癌素質ヲ作ルカ又ハ高メルコトガテキル。
5) 再生機構が伴ヒ又ハ發現スル總ベテノ病理學的變化ノ如ク結核ハ腫瘍發生ニ對シテ土壘トナリ得ル。

(東京市療 寺尾抄)

肺結核ニ於ケル循環系變化ノ病因ニ關スル研究

J. Molnár.: Untersuchung über die Pathogenese der Kreislaufveränderungen bei der Lungentuberkulose.

人間ノ慢性肺結核ノ大部分及實驗的ニ主トシテ肺結核ヲ起シタ家兎ニ於テハ循環像ガアリ之ハ慢性的 Minusdekompensation ヲ想ハシメル。他ノ部ニ出來タ結核又ハ Tuberkulin 注射テハ循環系ニハ一義的變化ハ起ラナイ。肺罹患ト Minusdekompensation ノ像トニハ關係ガアルト云フ考ハ恐クハ正當テアラウ。肺ノ罹患ニヨリ循環系ニアル物質ガ入りソレガ循環系ニ臨牀的變化ガ現ハレルノデアルト云フノハ恐クハ考ヘ得ラルハコトデアル。循環系ノ空流、動靜脈壓ノ降下血管ヨリノ血漿ノ溢出赤血球増加ノ變化ハ病的生理學テハ知ラレタ現象デアツテ之ハ循環系ハ所謂 Shock 毒ノ作用ニヨリ起ルモノデアル。此假想ノ物質ハ Histamin 類似物質ニ之ヲ求メントスルノハ恐ラク正當テアラウ。一體、肺ハ體內ニ於テハ Histamin ニ富シタ臟器デアル。此事實ハ英國ノ研究家が既ニ肺ヲ Histamin ニ關シテ見レバ内分泌的臟器デアルト見ルベシトサヘ云ツテ居ル。肺ノ慢性罹患ノ經過中 Histamin ハ多量ニ遊離スベクソレガ循環系ニ既述ノ變化ヲ與ヘルモノデアラウ。然シ現在ハ吾々ハ肺結核ノ循環系ハ Shock 毒ノ作用後ニ現ハレル循環像ニ比スル特有ナル狀態ニアルコトヲ知ルニ過ギナイ。

(東京市療 寺尾抄)

結核性兒童ニ於テ白血球像ノ變化ト Velez 數トノ關係

Oskar Felsenfeld: Die Velezsche Zahl und ihr Zusammenhang mit den Veränderungen des weissen Blutbildes beim tuberkulösen Kinde.

Velez = ヨレバ血像學的診斷ニ於テ白血球ノ各種ノ變動ガ大切テ殊ニ中性嗜好細胞ノ核ノ二又ハ三分葉ノ關係ノ變化ガ大切デアル。核ノ二分葉ノ數ハ三分葉ノ數ノモノヨリモ多イ時ハ positive Velezsche Zahl (VZ.)ト云フ。Velez = ヨレバ positive VZ ハ活動性結核ニ特有デアルト云フ。然シ著者ノ述ベルトコロニヨルニ VZ. ハ決シテ他ノ試驗方法以上ノモノデアナイ。又今日マテ結核ノ診斷法トシテ確實ナ方法

ハ未ダ發表サレテ居ナイ、就中活動性ヲ示ス完全ニシテ確實ナ血像學的示標ガ示サレテ居ナイ。VZ ハ Prozess ガ非活動性トナル前ニ陰性トナリ且中毒顆粒ハ臨牀的ニ既ニ非活動性トナツタ者ニ現ハレルコトガ屢クアルカラ positive VZ. ヲ以テ結核ヲ非活動性トシテ説明スルコトハ認容デキナイ事デアル。中毒性顆粒ノ存在スル場合ハ常ニ慎重ヲ要スル。終ニ他ノ量的及質的性質ヲ究メナイテ血像ヲ評價セントスルコトハ不可能デアル。(東京市療 寺尾抄)

結核性淋巴腺ノ氣管枝内排出又ハ穿破ノ場合ニ起ル肺ノ膨脹不全及膨脹不全性肺炎

Felix Fleischner: Atektase und atelektatische Pneumonie bei Ausstossung oder Durchbruch eines tuberkulösen Drüsenherdes in den Bronchus.

會テ Hartung ガ(Beitr. Klinik. Tbk. 77)ニ報シタ例ト自己ノ2例ノ觀察報告更ニ本文ニ記サナイ著者ノ自ラノ觀察ヲ根據トシテ表題ノ如キ肺炎ノ病理及臨牀所見ヲ記ス。氣管枝壁ノ穿破ハ咳嗽ガ原因トナルモノテ時ニハ血痰ヲ伴ツテ來ル。淋巴腺竈ハ氣管枝狹窄ヲ起シ其部ノ肺部ニ膨脹不全ヲ招來スル。是等ハ全身症狀ナシニ經過シ純粹ノ膨脹不全ヲ來スカ又ハ之ト共ニ膨脹不全性肺炎ヲ起ス。臨牀的ニハ非定形的肺炎ト混同サル。X線像ニ於テハ膨脹不全性硬塞、萎縮及氣管枝狹窄ヲ認メ得ル。然シX線ノハ他ノ機構ニヨル氣管枝狹窄ト間違ヤスイ。離脱シタ竈ガ氣管枝石トシテ又ハ破開シタ病竈ガ嚙出サレテ了フト膨脹不全ノ部分ハ速ニ再ビ通氣サレテ全身症狀ハ消失スル。更ニ稽留性肺膿性氣管枝閉塞ト膨脹不全性肺炎ガ現ハレ又此破壞シタ淋巴腺竈カラ氣道性播種又ハ浸潤、肺癆等ノ關係ヲ示セルヲ見ル。

(東京市療 寺尾抄)

結核組織内ノ鐵蓄積ニ就テ

Bernhard Steinmann: Über Eisenspeicherung im tuberkulösen Gewebe.

V. Menkin ハ結核家兎ニ繰返シ鐵鹽ヲ靜脈内ニ注射スルト鐵ハ結節ノ乾酪中心部ニ好シテ蓄積スルト報シタ、此所見ヲ實證センガタメニ著者ハ一方テハ結核臟器殊ニ人間ノ肺内ニ於テ他方テハ天竺鼠ニ鐵鹽食餌ヲ與ヘタ物ニ就テ結節内及乾酪竈ノ鐵含量ヲ検査シタ。人間ノ臟器ヲ見ルト結節及乾酪竈ノ周邊ノ非結核性組織ニハ鐵ハアツタガ殆ンド例外ナシニ完全ニ鐵ノ缺乏ヲ示シテ居ル。

靜脈内注射ニヨリ結核トシタ天竺鼠ヲ試験ト對照獸トニ分チ前者ヲ長期間毎日鐵ヲ以テ飼養シタガ體重曲線ノ關係ニモ結核性 Prozess ノ廣サニ於テモ兩群間ニハ何等ノ區別ガナカツタ。試験獸ノ脾、肝、一部ノ肺モ對照獸ノ同臟器ヨリハ鐵含有量ノ高イコトヲ示シタ。一般ニ兩群共結節殊ニ乾酪竈ハ含鐵ノ狀テハナカツタガ其周邊ニハ多量ノ鐵ガ蒐積シテ居タ。唯乾酪竈内ニ石灰沈著ガ屢アルト同様ニ結節ノ周邊部ノミニ輕微ノ鐵蒐積ガアツタノハ屢見ラレタ。鐵ヲ以テ飼養シタ正常天竺鼠ハ肝臟内ニ輕微ノ鐵増加ヲ決定デキタニ過ギナイ。然シ脾ト肺内テハ鐵ノ増加ヲ來シテナイ。結核獸ノ脾、肝、肺内ノ鐵ノ蒐積ハ多少ナリト結核性ノ Prozess ニヨツテ影響サレルヤウニ見エルガ此時ニハ鐵ハ結核性部位自身ニ蒐積サレルコトハナイ。Menkin ト著者トノ成績ノ相違ハ家兔ノ試験手技ニアル。天竺鼠ニ於ケルモノハヨク一致シテ居ル、ソレハ結核部殊ニ乾酪竈ニハ正常組織ヨリハ極僅ニ蒐積セルニ過ギナイコトデアアル。要スルニ著者ノ結果ハ Menkin ノ成績ト明ニ對立シテ居ル。

(東京市療 寺尾抄)

結核及出血性素質ニ於ケル肺出血ニ就テ

J. Leitner: Über Lungenblutung bei Tuberkulose und Hämorrhagische Diathese.

結核ト出血性素質間ノ關係ハ今迄餘リ觀察サレナカツタガ存在スルモノデアアル。結核患者ニ現ハレル紫斑病ノ多數ハ結核ガ原因ヲナスト考フベキデアアル。重症ノ敗血性結核形又ハ慢性肺癆ノ惡液質性終期ニ於テ紫斑病ハヨリ屢々現ハレル。其際紫斑病ハ造血系及網狀内皮系ノ終期的障病ノ表現デアルト見ルベキモ

ノデアアル。紫斑病ハ稀ニハ輕症ノ結核ニモ出現スルコトハ多ク觀察サレタ。又是等ノ紫斑例ハ屢々結核性 Schub ト共ニ來リ、又 Schub ガ鎮靜シテ後ニ消滅スル。是等ハ anaphylaktoide Purpuragruppe ニ屬スベキ疾患トシテ觀察サレ結核性中毒ニヨツテ起ル。其他ハ Purpura 脾結核ノ際ニ屢々觀察セラレル。此決定ハ實用上ノ意義ガアリ適時ノ診斷ニヨリ適切ナ治療ヲ加ヘシメ得ル。多クノ學者ハ結核性脾臟除去後ニ治癒スルコトヲ報告シテ居ル。

結核ノ場合ノ紫斑病ハ Purpura athrombopenisch 或ハ thrombopenisch 遂ニハ thrombasthenisch テアリ得ル。是等ハ精細ナル研究ニヨリ色々ニ分チ得ラレルモノデアアル。

結核ガ潜伏性 Blutungsbereitschaft ヲ起シ得ルヤ否ヤノ問題ダガ之ハ Purpura トシテノ症狀ヲ現ハサナイテ肺出血ノ傾向ヲ現ハレルモノダ。著者ハ本問題ヲ解決スルタメニ凝血時間、出血時間、Thrombozyten 數、血餅ノ Retraktion 及ビ Rumpel-Leede 氏現象ノ血管要約ト變化シタ内皮系ヲ有スル血管要約ヲ研究シタ。即結核者 36 人中 7 人ハ出血中 15 人ハ出血後ニ他ハ喀血ノナイ時ニ検査シタ。ソレニヨルト上記要約ノ一義的變化ハ出血ノ Bereitschaft ノ高マル意味ノアツタノハ少數例ジカナカツタ。大多數ノ Blutungsbereitschaft ハ出血時間ノ延長及ビ Gerinnselretraktion ノ遲延ト Thrombozyten 數ノ減少ニ歸スベク凝血時間ノ延長ハ 2 例ニシカ見ラレナカツタ。血管要約ハ時々病的變化ヲ示シ多クノ例ハ Thrombozyten 及出血時間ニ對シテハ正常ノ所見デアツタ。

(東京市療 寺尾抄)

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose 86. Bd. 3. Ht. 1935

氣管枝癌ノ診斷學ニ就テ

A. Kenner: Zur Diagnostik des Bronchuscarcinoms. 著者ハ 18 例ノ氣管枝癌ノ臨牀の主徴ヲ記シ是等ニ殆ト常ニアル隨伴現象ハ肺部ノ慢性肺炎性變化デアツタコトヲ述ブ。硬化性、膿瘍性壞疽性病形ニ慢性肺炎ノ存在スル場合ニハ其所屬氣管枝ノ狹窄ヲ探スコトガ必要デアツテ又繰返シ來ル喀血、狹窄性呼吸、皮膚靜脈ノ怒張又ハ副血管ノ形成等ノ數多ノ症狀ヲ綜合スル時ハ診斷的意義ノアルコトヲ主張シ特有ナル症狀ニヨリ早期診斷ガ可能デアルト云フ。

(東京市療 寺尾抄)

肺結核ノ各病形ヲ臨牀的ニ判斷スル際赤血球沈降反應ニ對スル白血球像ノ意義

Günther Thiele: Die Bedeutung des weissen Blutbildes im Verhältnis zur Blutkörperchensenkungsgeschwindigkeit bei der klinischen Beurteilung einzelner Formen der Lungentuberkulose.

著者ハ 100 人ノ男ニ就テ赤沈ト同時ニ血像ヲ觀察シタ。患者ハ開放性一部ハ空洞性ヲ臨牀的ニハ多少潜伏傾向ヲ有セル肺結核デアアル。赤沈値ハ正常カ又ハ限界値ヲ示シテ居タ (1—10 mm) ガ血像ニハ甚シイ變化ガアツタ。又各白血球形ニモ相異ガ多カツタ。多クノ

患者デハ總ベテノ血球形ニ量的及質的ニ甚シイ變化ガアリ少數者ニノミ異形ヲ見タ。總白血球數ハ正常カ又ハ増加シ減少シタノハナイ。全部ニ淋巴球増加ヲ示シ中性嗜好細胞ニハ同時ニ強度ノ左遷ヲ見タノガ屢デアツタ。殆ンド正常値ノ中性嗜好血像デアツテモ淋巴球ハ甚シク變化シテ居ル。又全く正常ノ血像ハ一人モナカッタ。血像學の所見ハ臨牀的ノモノトハ屢々一致シナイモノデアル。赤沈ガ正常テモ白血像ガ正常テモ空洞ノ存在ヲ否定デキナイ。ガ然シ白血像ガ正常ニナツテ初メテ肺内ノ Prozess ハ眞ニ停止シタコトヲ示ス。著者ノ検査例デハ白血像ハ赤沈ヨリモ勝ツテ居タ。ソレハ疾病ガ眞ニ停止セズ赤沈及其他ノ臨牀上ノ所見ノミガ誤認セシメルコトヲ示シテ居ル。Schilling ノ云ツタ Phasen 及 Hämogramm が眞實ノ關係ヲ示シテ居ナイタメニ是認デキナイノデアル。實際上ノ目的ニ對シテハ Arneth ノ短縮シタ中性嗜好細胞ノ血像ガヨイ。何トナレバ之デハ 100 中性嗜好細胞中第一級ノ細胞ノミヲ決定セバヨイカラデアアル。

(東京市療 寺尾抄)

胸廓成形術ノ手技的改良

Richard Noack: Technische Verbesserungen zur Thorakoplastik.

Thorakoplastik ヲ行フ時ニ最速ニ確實ニ又安値ニナスタメニ肋骨ノ骨膜及軟部ヲ容易ニ除キ得ルヤウニ工夫シタ Raspatorium ヲ圖解シタモノテ其長サガ 32 cm ノ二種、22 cm ノヲ一種ト更ニ 30 cm ノ Schere 付ノ一種ノ使用法ヲ記シテアル。(東京市療 寺尾抄)

結核菌株ノ菌型決定ノ補遺及人類ニ於ケル牛型菌感染頻度問題ニ就テ

E. Piasecka-Zeyland und W. Sznajder: Beitrag zur Typenbestimmung von Tuberkelbacillenstämmen und zur Frage der Häufigkeit der bovinen Infektion beim Menschen.

成人 27 人ト小兒 31 人ヨリ 58 菌株ヲ得内 54 株ハ人型菌 4 株ハ牛型菌デアツタ。其 4 人中 2 人ハ屠殺夫、2 人ハ生牛乳飲用者デアツタ。此牛型菌感染ガ少イコトハ一般ニ母乳ヲ以テ哺育シ生獸乳哺育ガ排セラレテ來タ傾向ヲ示スモノデアツテ Jensen ガ提唱シタ假説ニ從ヘバ此所テノ關係ハ意義アルコトガ云ヒ得ル。

(東京市療 寺尾抄)

結核菌ニ對スル水及物理化學的要約ノ作用

J. Weissfeiler und K. M. Dwolaitzkaja-Barischewa: Die Wirkung des Wassers und physikochemischer Faktoren auf die Tuberkelbacillen.

結核菌ハ水中ニ浮游セル場合ニハ迅速ニ死滅スルモノテ生存シ得ル菌數ハ浮游液ヲ作ツタ後 10—20 日ヲ經レバ $1/100$ ニ減ズル。又菌株ニヨツテハ水ノ作用ニ對シテ色々々抵抗カヲ有シ或種ノ研究室内菌株ハ水中テハ却テ増殖スルノガアル。各結核菌ハ水中テハ病原菌トシテ根本的ナ Variation ヲ來スト共ニ根本的ナ變化ヲシテ aktinomyceten, Diphtheroiden, Mikrokokken トナル。是等ノ微生物ノ一部ハ極メテ徐々ニシカ發育シナイカラ Dissoziation ノ試験ニ際シテハ孤立 Kolonie ヲ呈シ且結核菌ノ發育ニ影響サレナイ。結核菌ヲ水中テ死滅セシメテ次デ行フ Dissoziation ノ試験ハ色々々 Variationsformen ヲ見ルニ適シテ居ル。ソレハコノ方法ハ容易ニ繰返シ行ヒ得且カナリ Konstant ニ所期ノ結果ヲ得ラレルカラダ。物理化學的條件ガ變化スルコトニ及ボスモノハ PH ガ良成績ヲ與ヘル。FeCl₃ ノ N/264 ノ液ハ 3 價ノ Ion 化鐵 (Fe⁺⁺⁺) ガ恐ク菌體ニ固著シテ色々々形態發生ニ好都合トナルノデアラウ。色々々變化シタ微生物ハ安定性デアツテ之ガ再ビ結核菌ニ還元スルコトハ今迄ニハ成功シナイ。是等ノ成績ニヨリ結核菌ハ場合ニヨツテハ phylogenetisch ältere Phasen へノ隔世遺傳ヲ示シ得ルト云フ假説ヲ支持スルモノデアル。

(東京市療 寺尾抄)

Thiele 氏ノ「肺結核ニ於テ診斷及豫後決定ニ對スル赤沈値ニ就テ」ニ對シテ

Illig: Erwiderung auf die Arbeit von Dr. Thiele: „Über den Wert der Bestimmung der Blutkörperchensekungsgeschwindigkeit für die Diagnose- und Prognosestellung bei der Lungentuberkulose“ Beitr. Klin. Tbk. 85, H. 4, 302

著者ハ Thiele ガ要治療結核患者ノ赤沈値ガ多數ニ於テ正常値ナリト示セルコトヲ駁シ之ハ 1 時間ノ値ヲ見ルカラカクナルノテ著者ノ多數ノ經驗ニヨルニ 2 時間ノ値ヲ見ルコトガ大切ナルコトヲ主張スル。

(東京市療 寺尾抄)

肺臓診斷學ニ於ケル「レントゲン」立體像ノ價值ニ就イテ

Dr. H. Schultz: Über den Wert des Röntgenraumbildes in der Lungendiagnostik.

先ヅ著者ハ立體鏡寫眞ノ原理竝ニ之レガ文獻ニヨル變遷ヲ論ジ Röntgenstereoskopie ノ得失ニ論及シ立體像ガ肺臓診斷學ニ於テ何ヲ充タスカラ判定セントシテ試ミタル總資料ヨリ好結果ヲ得タルモノ 120 例ヲ次ノ四群ニ分チ以テ記ス。

1. 一般の解剖生理學的或ハ局所的興味アル例(10)
2. 種々ナル期別ニ於ケル結核症例(74)
3. 非結核性病的症例(20)
4. 氣管枝描寫法(16)

〔I〕 一般の解剖生理學的或ハ局所的興味アル例

肺門部ニ有スル小陰影斑ガ腺ノ石灰化ニヨルモノデアアルカ或ハ之ノ場合 orthograd ノ血管枝ガ問題デアアルヤ否ヤハ臨牀家ニトリテハ興味アル問題デアアルガ其正鵠ハ期シ難キモ立體像ニ於テハ一見シテ説明シ得ル。

肋軟骨ニ於ケル石灰化ハ一定ノ場所ニ於テ點綴セル場合或ハ病的陰影ト重ナル場合ニハ誤認サレル恐レアルモノデア又他ノ例ノ如ク別個撮影テハ一見肺野ニアル斑點様石灰化陰影モ明カニ肋膜石灰化トシテ後胸壁ニ認メラレタ。或ハ解剖的變異——無名靜脈葉——モ確立シ得ル。夫レハ識別診斷ニ於テ大切ナルモノデアアル。

〔II〕 結核症例

結核ハ實際的ニ大ナル意義ヲ有スルモノテ種々努力ノ結果 Dicolés ニヨル Telestereoradiographie ナルモノガ生レタ。之レニ於テハ影像距離ハ大トナリ撮影ニ際シテ理想的ニ鮮明ナルモ近距離ヨリノ觀察ニ際シテハビヅミテ認メラレル。故ニ著者ハ影像距離ヲ 150 cm. 開キテ 13 cm. トシテ撮影セリ。

單一撮影像ニ於テハ容易ニ認メ得ナカツタ或ハ肋膜性變化ニヨリテ被ハレタ早期浸潤ハ立體像ニ於テハ容易ニ確定スルコトヲ得、然モ深部病竈ニシテ臨牀的ニ病的症候ヲ胸壁ニ聞クヲ得ザル時ニモ解決ヲモタラスモノデアアル。Tenbergen 及 Albada ノ書ケル如ク境界不鮮明ナルボケタ陰影ハ幾何學的計測ニヨリテハ明カナ位置判斷ヲ得ラレナイガ主觀的觀察ニ於テハ互ニ融合セル陰影デモ空間的ニ判別出來ル。結核

ノ産出性竝ニ纖維性病型ハ立體寫眞ニ對シテ一層簡單ナル像ヲ呈スル。

移行型ニ於テ其ノムシロ産出性ナルカ滲出性ナルカヲ決定スルニ便ナリ。

空洞形成前浸潤ニハ立體像ハ殊ニ役立つモノデア空洞ハ理論上球狀トシテハ認メ難ク平面的ナ環狀陰影トナルベキモ其ノ前後ニ存在スル種々ノ陰影ヨリ空洞トシテ想像スルコトガ出來ル。

氣胸術施行ニ於テ臨牀家ニトツテ有意義ナルモノハ索條形成ノ認識デアツテ之レニ對シテモ確實ヲ與ヘルモノデアアル。瘻著アリテ所々ニ Tasche ガ生ジテル様ナ場合ハ立體像デモ分ラナイガ之レニ浸出液ガ溜ルト忽然ト生ズル陰影ニヨリ空所ノ兆ガ明カトナル。

浸出液自體ハ「レントゲン」像ニ於テハ同質ナル陰影ニ過ギズシテ高度ノ濃厚ナル浸潤ト類似ス。

〔III〕 非結核性病的症例

氣管枝性肺炎ハ一定病期ニ於テハ硬化性結核ノ像ヲ呈スルモノデアアルガ兎モ角 Raumbild ニ於テハ區別シ得ル。

石工肺ハ常ニ結核ト見做サレルモノデア臨牀上所見ト病理解剖的所見トガ決定スル。

葉間胼胝モ肺門ニ於ケル同質性陰影モ同様立體像ニ於テ様子ヲ明ニスルヲ得。

〔IV〕 氣管枝「レントゲン」寫眞

氣管枝「レントゲン」寫眞ガ發見サレテ以來全盛期ハ去ツテ居ルガ兎モ角解剖學的研究例ヘバ生體氣管枝ニ於ケル好適分枝角ノ法則ノ研究ノ如キニハ大ナル價值アリト。(刀根山 杉田抄)

肺結核ニ於ケル水素「イオン」濃度

V. Balanescu, Simion Oerin und Vasile Vartic: Die Wasserstoffionenkonzentration bei Lungentuberkulose.

血液及淋巴漿液ニ細胞成分ヲモツ漿液ハ「アルカリ」性デアアル。漿液中ノ酸性反應ハ其ノ度ニ平行シタル重篤ナル障碍ヲモタラス酸或ハ「アルカリ」度ノ觀察ハ豫後判定ノ上ニ必要デアアルガ多數ノ學者ニヨル成績ハ多様デアアル。

著者ハ 126 例ノ肺結核患者ト 12 例ノ健康者ノ血液ニ就テ検査シタ。夫レハ磷酸「カリ」或ハ弗化「ナトリウム」ニテ處置シテ行フ方法ヲ爲シ、其 PH 値ハ Hellige-Komparator ヲ用ヒテ測定シ、指示薬ニハ色々ナ色調

ノアル 0.2 ヅ、ノ差ノアル硝子板ヲ用ヒタ。

試験的ニ健康者ニ就テ血液尿及喀痰ノ PH 値ヲ測定シタガ其平均値ハ血液 = 7.38、尿 = 6.30、喀痰 = 6.85 テアツタ。

肺結核患者ノ値ト健康者ノ値トハ差異ガアル。著者ハ患者ヲ次ノ五群ニ分チ

- a) 閉鎖性硬化性肺結核(豫後良ナル)
- b) 開放性停止性肺結核(豫後良ナル)
- c) 開放性肺結核(良経過ヲトル)
- d) 開放性肺結核(不良経過ヲトル)
- e) 開放性重症肺結核

其血液、尿、喀痰、肋膜滲出液及肋膜膿ノ水素「イオン」濃度ノ平均値ハ次ノ如クテアル。

血液	尿	喀痰	
7.48	6.40	6.60	
7.40	6.00	6.40	肋膜滲出液 = 7.70
7.40	6.10	6.45	肋膜膿 = 6.70
7.30	5.40	6.00	
7.20	5.61	6.10	

以上ヨリ輕症テ良好ノ経過ヲトル例及ビ肋膜炎テハ水素「イオン」濃度ハ減少シ、「アルカリ」性ノ増加 PH 値ノ上昇ヲ觀察シ、此ノ状態ハ結核菌ノ發育ニ不適ナリ。重症及増悪傾向者ハ水素「イオン」濃度ノ上昇ヲ來ス。氣胸ニヨル肋膜滲出液ハ比較的高イ値ヲ有シ、肋膜膿ト粘液膿性痰トハ PH 値ハ少ナイ。輕症ノ尿ノ PH 値ハ殆健常テアリ重症ハ減少傾向ヲ有ス。カク水素「イオン」濃度ノ値ハ治療ニヨルモノテナク病期及其型及重症ノ程度ニ影響セラレルモノテアル。

(刀根山 山中抄)

1936 年 6 月 Warnemünde ニ於ケル獨逸國結核豫防委員會及ビ結核醫師會總會

K. Diehl, sommerfeld: Jahreshauptversammlung des Reichstuberkuloseausschusses und der Vereinigung Deutscher Tuberkuloseärzte im Warnemünde von 5. bis 6. Juni 1936

Dr. Fray ノ開會ノ辭

Heigl(st. Goar)家族以外ヨリスル青少年結核感染ノ豫防方法。義務の乃至非義務の自由の生活團學校幼稚園、孤兒院、青年團、Lehrstelle, Hauspersonal, Tagesheim 等ニ於テ役人、世話人、親方教師等ハ就職時ニ健康診断ヲ受ケルカ相談所ノ健康證明書所有者ヲ採用スルコトニシ學校ニ於テハ教師生徒共ニ年

1 回健康診断 X 線診査ヲ行フ事ヲ主張セリ。

Sprungmann(Düsseldorf). 職業ニヨル結核傳播ノ豫防、看護婦特ニ結核患者ノ看護婦ニハ素質ノアルモノ、25 歳以下ノモノ、「ツベルクリン」反應陰性ノモノハ成ラサス、看護婦ハ每半年乃至一年身體検査ヲナス。塵埃勞作ニハ活動性及開放性結核患者ヲ作業セシム可カラズソノ代リ之レニ對シテハ經濟的保護ヲナス、結核ニ疑ハシキ症モ届出テシメ民間療法ヲ禁ズ、スネ者ヤ沒常識漢ハ強制診察ヲナス。

Griesbach (Augsburg) 結核ニ對スル強制診察ノ法律ノ必要

Dorn (Charlottenhöhe) 結核ニ於テ強制治療ノ必要及ビ可能性

Hartwich(Berlin)及 Kayser-Petersen(Jena)ノ附議ニテ委員會ノ日程ヲ終ル。

結核醫師會科學日程、

Deist(Überruh)開會ノ辭

Klare(Scheidegg)小兒及若年者ノ開放結核ニ就テ

1916—1933 年ノ間ノ 502 例ノ開放性結核小兒及若年ニ就テ 3 年毎ノ間ヒ合セニヨリソノ轉歸ヲ見ルニ最初ノ 6 年間ノモノハ皆死亡シ、10 年間ノテハ 95.5% 死亡、次ノ 6 年間ニ於テハ 80% 死亡セリ、75% 位迄ハ死亡率ヲ下ゲ得ルカモ知レヌ、好影響ヲ與フル因子トシテノ、内因テハ

Lymphatism 外因テハ早期診断ト適當ナル治療ナリ Braeuning (Stettin)ノ追加、13 年間ノ觀察テ死亡率 80% テ積極的療法ニヨリ影響ヲ認メヌ。

Böhne(Hamburg)Meinicke 氏結核反應ニ就テ 20000 例ニ於ケル検査臍帶血液ハ全部陰性、新鮮ナル心内膜炎、高キ殘餘窒素價ヲ有スル腎臟病ノ一部肝硬變ノ一部及ビ種々ナル疾患ノ若年者ノ一部分ニ於テハ陽性ニ現ル成人結核ニ於テハ慢性進行性肺癆ニ於テ 100% ノ陽性ヲ得、急性病機ノ消褪ト共ニ減弱スルモ赤沈ヤ臨牀症狀ヨリ遲レテ來ル、推進ノ場合ニモ遲レテ發現ス、臨牀上非活動性ノ場合ニハ殆ソド全部(一)ナリ、病竈形成ノ新シキ場合ニハ此反應ハ鋭敏ニ調節シテモ不感ナリ、外科結核ハ病竈ノ大ナル骨結核ニハ(十)淋巴腺ハ乾酪化スルモ 50%(十)腎及膀胱結核モ強乃至中等度(十)、

此ノ反應ハ熟練ト經驗ヲ要ス。非特異性ノ絮狀沈澱ト間違ヘヌタメニ色々ノ材料ニ於テ經驗ヲ積マネバナラス。

Meinicke ハ腦脊髄液ノ(一)ナルヲ注意シ Hantwich (Berlin)及 Kalk(Berlin)

追加アリ。

次テ結核ニ於ケル消毒方法ニ關シテ次ノ3人ノ演説アリ。

Habs(Heidelberg)

消毒(Desinfektion)ハ病毒ヲ殺スト云フ狹義ニ解セラレテキルガ元來ハ感染不能状態ニスルト云フ意ナリ、消毒ハ直接感染ノ場合ヨリモ間接ニ物ヲ介シテ傳染スル場合ニ有効ナリ、結核ニ於テ牛乳ニヨル感染ハ Pasteur 法ニヨリ完全ニ妨グヲ得、飛沫ヨリモ塵埃傳染ガ主ナリト認メラル、吸入感染ノ場合ニモ消毒ハ必要ナリ。結核感染経路ニツキテノ知識ノ進歩ガ有効ナル消毒ノ應用ニ最モ必要ナル條件ナリ。

Gabe(Stammberg)療養所ニ於テ従業員及ビ患者ニ對スル感染竝ビニ重感染ヲ避ケルコト、下水ニヨル近隣ノ危害ヲ避ケルコト必要ナリ、飛沫傳染ハ患者ヲ教育スルコトニヨリテ避ケ得ル、塵埃傳染ハドノ程度ニ危険ナルカ、之レハアマリ怖レラレ過ギノ傾アリ、此ノ危険ノ程度ヲ知ラントシテ實驗セリ、海狸ヲ一ケ年以上診察室及ビ洗濯物敷ヘ室ニ籠ニ容レ飼養セルニ罹患セズ、同室ノ床及ビ壁ヤ戸ノ棧ノ上ノ埃ヲ檢セルニ動物試験及ビ培養共ニ陰性ナリ病牀ノ毛布、敷布、札掛ケ絨等ヲ密室テ充分埃ヲ拂ヒ出シ同所ニ24時間海狸ヲ置クモ罹患セズ、對照トシテ結核痰ヲ塗リタル毛布ヲ以テ實驗セルニ罹患セリ、仰臥室ノ床ニツイテモ同様ナリ。

病室ノ消毒ハ水石鹼ブラシテ徹底ニ清掃スルコト甚ダ注意シテ床ヲ手入レスルコト及ビ通風ニテ足リル。「フォルマリン」消毒ハ死亡者ノアツタ後ニ行フト氣持ノ上テ良イ、毛布敷布類ハ「フォルマリン」消毒ヲ可トス書物ノ共同使用ニヨル危険ハ實驗上實地上甚ダ少イ、其ノ上實際上書物ノ消毒方法ニ便法ナシ。食器ハ病院ノヨウニ器械ヲ洗フ所テハ問題トナラス、且ツ此方面ノ危険ノ少イ事ハ食餌感染性ノ大ナル豚ヲ殘飯テ養フコト13年ノ經驗中カツテ罹患獸ヲ見ズ、第一ノ注意ハ喀痰ノ無毒化ナリ、化學的方法テハ理想的ノモノナシ痰ハ流通蒸氣消毒、洗濯物ノ煮沸ハ下水ガ結核菌ヲ汚サレル事ノ不可避ナル限リ一層必要ナリ便ト共ニ排出セラレタル結核菌ガ最良ノ淨化裝置ヲ通過シテ Vorfluterニ來ルコトハ獸試ニヨリ證明セラレ流レ小川ニ於ケル結核菌ノ生命ハ未試驗濟ナリ。

Sleininger(Konstanz)病氣經過中ノ消毒ハ患者及ビ其家族ガヨク物ノ分ツタ人々テナイト行ハレナイ。病氣終結又ハ引越シノ際ノ跡ノ消毒ハ遲滞ナク届出シメテ完全ナル公ノ消毒者ノ手ニヨリテ消毒セシメバナラス、消毒法ハ「フォルマリン」蒸氣消毒ヨリモ化學劑ヲ以テ清拭スル方ガヨイ。

Lange(Berlin)Braeuning(Stettin) Bachmann(Königsberg)ノ追加アリ。飛ビ入りトシテ

J. Schrameck(Aussig) Löwenstein 法ニヨル血中結核菌培養ニ於テ陰性成績ヲ發表シ、次テ

Graf(Coswig bei Dresden)特ニ社會醫學ヲ考慮シテ行ヘル「トラコプラステーク」ニ就テ。

肺上部ノ空洞存在部ヲ絶縁シ下部ノ健康部ノ機能ヲ保存スル「トラコプラステーク」ノ方法ノ結果ニ就テハ未ダ結論ヲ得ルノ時期ニ達セズ、演者ノ經驗テハ1930年報告提案セルモノヲ改良シテ效果ヲヨリ良クシ危険ヲ少クスルヲ得タト信ズトテ「レントゲン」寫眞「セリー」ヲ引用セリ。

「プラステーク」ハ人工氣胸術ノ行ヘナイ場合又ハソノ無効ナル場合最後ノ手段トシテ行フベク、林檎大以上ノ空洞アルモノハ直チニ「プラステーク」ヲ行フベシト云フ Kremerノ主張ハ採ラズ、横隔膜神經捻除術ハ獨立ノ療法トシテハ成リ立たズ、又「プラステーク」ノ前處置トシテモ不可缺ノモノテナイ、林檎大以上ノ空洞アルモノニハ豫メ此ノ手術ヲ行ヒ障碍ナクバ3箇月以上經過ノ後「プラステーク」ヲ行フ、又肋膜外選擇氣胸及ビ油胸ヲ以テ「プラステーク」ヲセズニマス事ニ努力スルガヨイ。

W. Schmidt(Heidelberg-Rohrbach)Körperschichtaufnahmeヲ考慮シテ「プラステーク」ノ適應ヲ定ムル方法。

Grafノ部分整形術ヲ效果的ニスルニハ適應セル患者ノ選擇ガ必要ナリ、理學の所見、X寫眞列、赤血球沈降速度、血液像、體温、脈、體重、喀痰所見等ノ外ニ「スピロメーター」ニヨル肺機能検査、電氣心動圖ニヨル心機能検査、「レントゲンキモグラフィ」、レントゲンケルパーシビトアルフナーメ」等ヲ參考ニスベシ、此ノ新シキ Körperschichtaufnahmeノ方法ヲ「レントゲン」像ヲ示シテ詳細説明セリ、附議

Brauer(Wiesbaden)「プラステーク」ノ方法多數舉ゲラレ居ルモドレガ一番ヨイトハ決メラレス、個々ノ場合ニ夫々適當ナルモノヲ擇ベシ、「マイルプラステ

ーク」ハ患部ニ肋膜癒著アル場合ニ適ス、Maurer ノ人工的ニ癒著ヲ造ル方法モヨイ。

Sauerbruch(Berlin)「プラスチック」ハ常ニ危険ヲ伴フ手術ナルコト社會的立場ト同時ニ患者個々ニ對スル考慮ヲ必要トスルコト。

Brunner (St. Gallen) 自己ノ Teilplastik 手術例ヲ追加。

Beitz(Beelitz) 全及ビ部分胸廓整形術ノ呼吸機能ニ及ボス影響ヲ實驗セリ、手術前後ニ於ケル Atemgrenzwert (一分間ノ最大呼吸空氣量 Liter 數)ヲ檢シ、可

及的障碍ヲ少クスル Teilplastik ヲ推奨セリ。

Kremer(Beelitz) 林檎大空洞ノ直チニ「プラスチック」ヲ要スルト云フノハ早期空洞ノ場合デナク、晩期空洞ノ場合ニ就テナリ、Graf ハ之ヲ間違ヘテ指摘シ前處置トシテノ Exairese ハ必然ノモノナラズ、葉間肋膜ノ癒著アリテ横隔膜ノ運動ガ上葉ヲ引張ル如キ場合ハ之ヲ行フト云フ Weber ノ提案ハ可ナリ。アメリカニ於テ推奨セラレ、一時的上葉充填法ニ次テ Teilplastik ヲ行フ方法モヨイト思フ。

(刀根山 辻川抄)

結核外専門雑誌

✓ 海猿結核血清ノ血清診斷竝ニ實驗的結核研究ニ對スル意義ニ就テ

P. Weiland: Die Serodiagnose der Tuberkulose im Meerschweinchenserum und ihre Bedeutung für die tierexperimentelle Tuberkuloseforschung. (Zschr. für Immunitätsforschung, Bd. 88, S. 104, 1936.)

著者ニヨリ海猿結核ニ際シテノ血清學的現象ヲ捕捉スルニハ如何ナル方法ガ最モ適當ナルモノデアアルカ。而シテ、大體血清診斷ハ海猿ニテハ如何ナル意味ヲ有スルカガ調べラレタ。

1. 海猿血清ノ血清學的検査ニハ今日ナホ Witebsky, Klingenstein 及ビ Kuhn 氏等ニヨル補體結合法ハ Meinicke 反應ニ優ツテ居ル。但シ此際結合力完全ナ標準滲出物ヲ用ヒ、且ツ諸操作ニ充分ナ注意ヲ拂ハナケレバ有效成績ハ期シ難イ。

2. 海猿結核血清ノ抗體含有量ハ人體結核活性過程ニ於ケル際ヨリモ少量デアアル。

3. 一般ニ海猿血清中ノ抗體ノ生成ニハ數ヶ月ノ罹病期間ガ本質的ニ必要ナモノデアアル。

4. 抗體ト免疫現象トノ間ニハ直接ノ關係ハナイ。

(長大 陳抄)

結核ニ對スル活動免疫ニ際シテ網狀織内被細胞系統ノ有スル意義

P. Weiland: Welche Bedeutung ist dem reticuloendothelialen System bei der aktiven Immunisierung gegen Tuberkulose zuzumessen? (Zschr. für Immunitätsforschung, Bd. 88, S. 460, 1936.)

著者ハ結核免疫成立ノ際ニ網狀織内被細胞系統ノコレニ關與スル程度ヲ知ラント欲シテ、海猿ヲ用ヒテ實

驗的ニ調べタ。本系統ノ填塞劑トシテハ電解膠質ノ銅溶液ヲ用ヒ、填塞ヲ行ハザル動物ヲ以テ對照トシタ。又脾除去ニヨツテ障碍サレタル本系統ノ結核免疫ノ發生及ビ完成ニ及ボス影響ヲ見タガ、特記スベキ妨害ハ認めラレナカツタト云フ。氏ノ實驗ニヨルト、海猿ノ結核罹患ノ經過ハ網狀織内被系統ノ填塞ニ依ツテハ、不填塞對照動物ニ於テ見ラレルト同様ニ良好ニモ又ハ不良ニモ影響サレルコトハナカツタシ、又弱毒性ノ結核菌テ前處置シテ得タ結核免疫ノ發生及ビ完成ニ就イテモ、填塞サレタル動物ノ方ガ微弱デアルト云フ事ハ全然認めラレナカツタ。且又死滅枯草菌ヲ填塞劑トシテ、枯草菌又ハフリードマン氏菌テナサレタ試驗デモ結核ノ場合ト同様ニ、菌ノ生體內分布ハ本系統ノ填塞ニ依ツテ影響サレル事ハナカツタ。

最後ニ氏ハ結核免疫ノ本質ニ就イテ氏ノ實驗ノ結果ヨリ類推シ、本免疫ヲナスモノハ獨リ網狀織内被系統ニ關聯スル細胞群ノミデアハリ得ズ、之ヲ以テ、結核生菌ノ作用ニ對シテ生物ノ細胞ヲ非受感性タラシメントスル、組織細胞物理化學的作用ノ變調狀態ニ歸セシメル Selter 氏説コソ恐ラク眞實ニ近イモノトナスノ妥當ナルヲ述ベテキル。 (長大 陳抄)

異種細菌免疫後ノ致死的血行性結核菌感染ニ對スル抵抗力ノ動搖ニ就イテ

Susm Nukada u. Chie Ryn: Über Schwankungen der Resistenz gegen tödliche hämatogene Tuberkelbazilleninfektion nach Immunisierung mit Heterobakterien. (Zschr. für Immunitätsforschung, Bd. 88, S. 496, 1936.)

額田氏及ビ其ノ共同研究者ノ所謂蛋白體治療ニ關ス

ル實驗の研究ノ一部ヲナスモノテテ。本著ニ於テハ「モルモット」及ビ家兎ヲ「チフス」菌、淋菌、大腸菌等テ前處置シ、其等試獸ノ血行性結核菌感染ニ對スル抵抗力ガ精査セラレテ居ル。

「チフス」菌ト淋菌、或ハ「チフス」菌ト Bang 氏菌ヲ以テスル混合免疫、淋菌、「チフス」菌、Bang 氏菌又ハ「ベスト」菌ノ單獨免疫ヲ行ハレタモノハ、無處置對照動物ニ比シ致死の血行性結核菌感染ニ對スル抵抗甚ダ高く、殊ニ「チフス」菌ト淋菌ノ混合ヲ以テセルモノガ最モ抵抗亢進ガ著明デアツタ。反之、肺炎球菌、百日咳菌、大腸菌又ハ「コレラ」菌ヲ以テシタモノハ對照動物ヨリモ抵抗ノ減弱ガ證明セラレタ。

志賀志痢菌、「パラチフス」A 及ビ B 菌、腦脊髄膜炎球菌テ免疫シタモノ、抵抗モ幾分高マツテ居タガ、變形菌、葡萄狀球菌、綠膿桿菌、連鎖狀菌又ハ「インフルエンザ」菌テ免疫サレタモノハ幾分對照動物ヨリモ弱マツテ居タ。

次ニ血清或ハ「ガゼイン」テ處置シタ動物ハ一般ニ無處置ノ對照動物ニ比シテ同ジ程度ノ或ヒハ「ガゼイン」ニヨル方ガ幾分弱イ抵抗力ヲ示シテ居タ。而シテ一般的ニハ抵抗ノ變動ハ免疫期間中ノ體重ノ變化ト平行シテ居ナカツタト云フ。

家兎ニ於ケル實驗ハ以上ノ「モルモット」ニ於ケル結果ト全ク一致シ、唯抵抗ノ變動ノ程度ガ「モルモット」ニ於イテハヨリ著明ナモノデアツタニ過ギナイ。以上ニヨリ著者等ハ、致死の血行性結核菌感染ニ對スル抵抗モ免疫ニ使用シタル異種菌ノ種類ニ依ツテ異ルモノデアリ、從ツテ蛋白體治療ナルモノハ非特異的作用ヲナスモノニ非ザルノ結論ニ到達シテ居ル。

(長大 陳抄)

肺結核ト婦人科の手術

Dr. Med. Mabil. Hanns Dietel (Assistent der Klinik)
Lungentuberculose und gynäkologische operationen
(Zentralblatt für Gynäkologie 60 Jahrg. 26. September. 1936. Nr. 39.)

肺臓ノ結核性病態ニハ種々アリ、又ソレニ相當シテ身體ニモ種々ノ防禦力ガアルガ、兩者何レカニアル負擔ガ加ハツタ場合、防禦力ニ危險ヲ招來シ時ニヨツテハソノ防禦力モ零ニナル事モアル。ソノ事實ハ妊娠ト結核ト合併セル時ニヨク知ラレシ事デアリ特ニフランス學派ノ文獻中ニハ妊娠中細菌集團ノ増加ヲ見ル事ヲ指摘シ Satourin ハアル結核患者ニテハ妊娠中死

亡スル者モアルトイフ。同様な危險ハアル結核性機體ニ外科的ノ操作ガ加ヘラレタニモ生ズルツケテアル。コノ場合負擔トナルモノハ二ツデアアル。即チ一ハ手術ナル操作デアリ、一ハ麻醉法デアアル。從ツテ當事者タルモノハ結核患者ニ對スル場合、應急手術ノミ先ツ行ヒコレモ出來得ル限り小且ツ短クシ麻醉法ニ於イテハ全身麻醉、局所麻醉ヲ問ハズ出來得ル限り危險ヲ小ナラシメル様努力スベキデアアル。然シ充分注意周到ノ下ニ行ハレシニモカ、ハラズ、外科的操作後潜伏性結核ガ活動性トナリ或ヒハ既ニ開放性結核トシテ存在セルモノガ更ニ惡化ヲ來タス場合ガアルモノデアアル。

私ガ Eppendorf ノ Universitaet Frauenklinik ニテ觀察セル 2 例ハ非常ニ小ナル操作ヲ加ヘシバカリナルニ活動性結核ヲ惹起セルモノデアアル。1 例ハ 28 歳ノ婦人既應症臨牀の診察ニヨルモ何ラ結核性肺疾患ヲ證明シ得ナカツタ。赤血球沈降速度體温モ通常手術トシテ Madlener ノ避妊術ヲ行ヘルガ術後體温上昇シ肺炎ノ如キ肺症狀ヲ引キ起セリ。「レントゲン」寫眞ニヨリ左下葉ト中葉ニ廣汎ナル浸潤ヲ見略痰中ニハ多數ノ結核菌ヲ證明シ得タ。但シ手術前「レントゲン」寫眞ハ撮ツテナカツタ。第 2 例ハ 32 歳主婦既應症打診聽診ニヨルモ何ラ肺變化ナク體温赤血球沈降速度モ正常デアアル。コノ場合妊娠 4 ヶ月ノ人工流産ソレニ附隨スルニ Madlener ノ避妊術ヲ行ヘルガ術後體温上昇、氣管枝肺炎滲出性肋膜炎ヲ引キオコシコレ又結核菌ヲ證明シ得タ。コノ 2 例ニツキ考フル時潜伏性結核ヲ考ヘザルヲ得ナイ。何故ナラバ手術ニヨリ外因的又ハ内因的ノ傳染ガ合併シ來タレトハ考ヘラレナイカラデアアル。然シ一方結核ガ手術ニヨリ又ハ麻醉ニヨリ活動的トナリシヤ否ヤニツキテハ斷言シ得ナイガ行ツタ手術ハ非常ニ小ナルモノデアリ結核ノ惹起セラレシ原因ナリトハ從來ノ外科經驗ヨリシテ考フルヲ得ナイ。

麻醉ニ於イテモ同様デアアル。アル人ハ肺ニ對シテ非常ナル負擔ヲ與ヘル(「エーテル」)麻醉ハ結核ノ惹起ニ重大ナル役目ヲ演ズルト主張スルガ全ク Kremer Blumenberg ノ如キ専門家テサヘソノ經驗ヨリ全身麻醉ノ危險ヲ指シテキル。第三患者 M. H. ハ前二者トハ全ク異ナリ、既ニ空洞性結核存在シ赤血球沈降速度ノ上昇熱發アリシ者テ而モ腰髓麻醉ノ下ニ Madlener ノ避妊術ヲ行ヘルガ術後一時全身狀態ノ惡化ヲ見シ

モ數週後輕快シタ。是等三者ニ於イテソノ原因結果ニツキ幾多疑問ノ存スル限リ我々術者ハ如何ニシテコノ偶發時ヨリ豫防シ得ルカニツキ熟考ガ必然缺ク可カラザルモノトナル。先ヅ第一ニ條件的ニ必要ナル手術ハ中止シ絶對的ニ必要ナラバ手術前必ズ充分周到ナル臨牀的診察ヲ行フベキテ現在ノ實情ニテハ如何ナル手術前ニモ「レントゲン」寫眞ヲ撮ルトイフ事ハ實行シ得ナイデモ婦人ニ於イテ打診聽診ニ體溫赤血球沈降速度ニ於イテホソノ少ナル變化アルモ必ズ手術前ニ肺ノ透視ダケハ行フ様ニスベキデアリソレガ偶然事ヲ豫防シ得ルニ最重要事ナラント信ズル。

(名大産婦人科 町野良彦抄)

新シキ立場カラ觀察シタル生殖器結核

P. Caffier: Neue Beobachtungen und Gesichtspunkte zum Thema Genitaltuberculose (Cbl. f. Gyn. 30. November 1935/Nr. 48.)

著者ハ冒頭生殖器結核ノ研鑽ニハ綿密ナル注意ガ必要デアルト稱シ、解剖的統計ガ肉眼的ニ結核婦人ノ4—6%ガ生殖器結核ヲ有スルガ、コレヲ顯微鏡的ニ検査スル時ハ25—30%ニ達スル。

生殖器結核ガ管ヲ想像サレタルヨリ多數存在スルコトガ判明スルニ至ツタノハ、近來法律的ニ避妊術ガ施行セラレル爲メト、子宮發育不全ノ「ホルモン」療法ガ行ハレ Pr. R. Meyer ノ報告例ノ「ホルモン」療法後ニ現レタル出血ヲ月經血ナルカ否カ確メントシテ攝爬シタル際子宮結核ヲ發見シタル如キ場合ニ遭遇スル爲メデアル。

子宮發育不全ト生殖器結核ノ關係ニツキテハ Colloridi ハ否定スレドモ、Heynemann ハ發育不全ガアルタメ結核ニ罹ルト言ヒ、Sellheim ハ小兒期ノ結核性腹膜炎ガ發育不全ノ原因デアルト稱シ、Schröder ハ發育不全ハ肺結核ガアルタメニ來ル二次的ノ萎縮デアルト稱シテ居ル。

次ニ診斷ニ關シテハ、生殖器結核ハ其ノ病徴ヲ有スルコトガ少ナイコトハ Krönig ノ統計ニヨリテ明カデアル。Heynemann ハ結核研究ハ進歩シタガ生殖器結核ニ就テハ大ナル進歩ガ見ラヌト唱ヘテ居ル、即 Hohn, Petragani 等ノ最新ノ培養基モ Hasse, Israel, Bozzolo 等ガ試ミタガ效果ガナイ。又 Wieloch, Wetterdal ハ尿路系統ニ於テハ排泄物、穿刺液ノ動物検査ノ結果ハ認メラレルモ、生殖器結核ニ就イテハ用フルニ足リナイトイフ。シカシコレハ唯一種ノ動物實

驗テ事足レリトシ數多ノ方法ヲ講シナイ爲メデアラウト稱シテ居ル。事實 Murtagh ハ此ノ事實ヲ指摘シ Couvelair ガ7種ノ方法ヲ用ヒソノ中ノ1個ガ陽性ノ結果ヲ得タル事ヲ引證セリ。Granow ハ結核ガ胎兒ニ移行サレルコトニ就テ濾過性ノ形テ胎盤ヲ通シテ行ハレルトイヒ、Tropea-Mandalari, Costa, Talsia ハ動物實驗テ羊水中ニ結核菌ヲ發見シテ居ルガ、コノ際子宮ト胎兒ニハ結核感染ガ見出サレナカツタ事ハ注意スベキ事實デアル。R. Meyer ハ結核患者ノ多數テ其ノ早期妊娠ノ胎盤ヲ調査シタルニ胎盤ニモ脱落膜ニモ變化ヲ見出し得ナカツタ。

生殖器結核ノ診斷ハカナル場合ヲ除外シテハ、組織學的ニ特有ノ變化アル場合ニノミ付ケ得ベキモノデアリ、結核菌ソノモノヲ見出スコトハ多クハ困難ナル故、妊娠ノ場合ニハ例外ト云ヒ得ル。Norak, Ranzel ハ7例ニハ菌ヲ3例ニハ解剖的變化ヲ證明セリ。斯ノ如ク生殖器結核ノ診斷ニハ菌ヲ見出スカ、組織的變化ヲ見出スカ以外ニ用フベキ方法ガナイ。

Daniel ト Soimaru ハ色素ヲドウグラス氏腔ニ入レ結核性子宮附屬器炎テハ、其ノ尿ニ出ル量ガ最小デアルトイヒ、Wilson ハ「Z-A-R」テ妊娠ガ否定セラレル時ハ結核ノ診斷ニ用ヒラレルトイヒ、「レ」線ハ氣胸或ハ卵管造影術ノ何レニモ使用サレル。Stein ハ氣腹ニ酸素ヲ使用スレバ治療時ニ效果アリトナス。子宮腔部結核ナラバ腔鏡ヲ使用シ得ルガコレトテモ試験的切除程確カナラズ。

次ニ著者ハ巨大細胞ノ發生ニ就キテ一言セリ。

著者ハ細胞培養シテコレガ無絲核分裂ニヨリテ又 Timofejewski ハ核融合ニヨリテ生ズルヲ見タリ、即巨大細胞ハ其ノ成立後カラハ何カラ生ジタルモノカ不明ノモノデアル。「in Vitro」テハ酸素缺乏ト「メヂウム」ヲ代ヘナイ場合ニ發生スルヲ見タリ。巨大細胞ガ淋巴球又ハ單核細胞カラ融合ニヨリテ生ジ、血液中ノ浮游細胞カラモ組織カラモ生ズルト考ヘラレル。然テ結節ニハ血管ノ少ナキヲ特徴トシコレカラ其榮養惡キコトハ直ニ了解出來ル、コレガ原因トナリテ巨大細胞ガ屢ク發現スルノデアル。著者ハ更ニ異物性巨大細胞トノ混同ヲ避クベキデアルト稱シ、殊ニ腫瘍一テハ榮養惡キタメ巨大細胞ガ成生シ易ク結核ト腫瘍トノ混合ガ誤リ報告サレテ居ル事實ヲ説述シタリ。

次ニ生殖器結核ノ各論ヲ述ベタリ。

卵管結核

第 1 例。右側卵管皺襞ノ一部が棍棒狀ニ膨レ即「Endosalpingitis tuberculosa」ノ形ヲ呈シ増殖セル肉芽ハ上皮ヲ破リテ輸卵管内ニ進入セリ。之ハ血流傳染ニ依ルモノデアアル。狹部及子宮部テハ餘程進行セル部分テモ粘膜炎が侵カサレズニ居ル。コレハ漿膜ガ早期ニ侵カサレルガ爲メデアアル。

此ノ例ハ初期テ更ニ病變ガ進行スレバ皺襞ハ肥厚シ癒着シ其ノ内部ニ細胞乃至ハ浸出液ヲ存スルニ至ル。カクシテ粘膜炎ハ原形ヲ止メヌ迄ニ變形シ、(左側ノ卵管ハ斯如キ程度デアアル。)嚢胞狀空洞ガ生ズル、若シコノ嚢胞ガ擴大サレ他方結核特有ノ肉芽ガ消失スレバ文献ニイフ「Endosalpingitis cystica」ノ形トナル。

第 2 例。太ク或ハ細ク結締織ガ卵管内腔ヲ橋渡シテ内膜ニ著シイ腺様構造ヲ示ス。丁度子宮内膜ヲ見ルコトクニナル。即 A. Martin ノ「Endosalpingitis follicularis」デアアル。R. Schröder ハ之ハ淋病ニヨリテ「Pseudofolikel」様變化ヲ生ジコ、ガ「Locus minoris」トナリテ結核ガ發生スルトイヘドモ、小兒或ハ處女ニ卵管結核ガ多イトイフ事實或ハ田舎テモ卵管結核ヲ見ルコトカラ矛盾ガアル。

第 3 例。増殖性變化アリ著者ハ増殖性變化ト浸出性變化トノ内ニ明カナ區別無シトイフ。

第 4 例。腺様筋腫ト混合セリ。コレト結核トノ關係ハ明カテナイ。

第 5 例。急性ノ腹腔内出血アリ開腹術ノ際ニモ子宮外妊娠ト考ヘタレドモ組織的ニハ明カニ結核デアリシ例。

卵巢結核

卵管結核ヨリハ少イモノトサレテ居ルガ、Schröder ハ生殖器結核ノ 3 分ノ 1 ニ Kurashima ハ 77.8%ニ依レバアリトイフ。Döderlein ハ卵管溜膿腫中ニ在リテ卵巢ガ少シモ侵レザルコトカラ抵抗ノ強キモノト考ヘテ居ル。Wittgenstein ハ卵巢ノ結核菌ニ感受性ニ就キテ述ブ。Dörr モ同様結核菌ニハ該臟器嗜好性無キコトヲ唱ヘタリ。

Kurmaner ハ結核性卵巢炎ハ血流感染ニ依ルモノト考ヘテ居ルガ著者ハ濾胞ノ裂口カラ結核ガ感染シ易ク黄体又ハ白體ガ感染シ易キコトヲ説ク。

子宮結核

(1) 子宮搔破ニ際シテ見ラレル。結核性内膜炎ノ形
(2) 子宮ニ播種狀ニ小結節ヲ生ズル場合、稀ナレドモ疣狀又ハ「ボリーフ」狀ノ突起サヘ生ズル。即「Pseud-

oneoplastische Form」デアアル。

(3) 子宮筋層ノ孤立性結節

此ハ果シテ單獨ノモノナリヤ否ヤハ疑問ノ餘地アリ。子宮結核ノ成因ニ就テハ依然トシテ下向性傳染ガ廣ク唱ヘラレテ居ル。Schröder ハ結節ガ最初淋巴腺、血管ノ多イ部分ニ見ラレル故ニ高位器官カラノ淋巴腺ヲ通ジテ傳染スルト考ヘラレル。

結核ノ根本的發生原因ハ明カデアアルガツノ形式的成因ニツイテハ意見ガ區々デアアル。

原發性生殖器結核ハ Gohn ガ唱導シテ居ルガコレハ稀ナモノテ其ノ局所ニ相當スル淋巴腺ノ腫脹ヲ伴ハナケレバナラナイ。

外部的再感染ハ(1)自己感染ニヨルカ(Pozz ノ secondaire metastatique) (2)重感染即感染ガ同一菌株テナク他ノ種類ニ依リテ起サレルカデアアル。

著者ハ原發性結核ニ就イテハ正當ナラズトシ次ノ如ク云フ。即所謂原發性トハ小兒期ニ於ケル結核ノ初期感染ヲ考慮ニ入レレバ、此ハ性器ニ於ケル外部的再感染ト稱スベキデアアルトイフ。

Ranke ノ分類ニ依ル第三期結核ガ内部的再感染ニ依ルモノカ外部的再感染ニ依ルモノカニ就イテハ Aschoff, Beitzke, Orkth ハ後ニ來ル外部性再感染ニ依リテ起ルモノ多シトナス。Eden ニ依レバ小兒結核ハ 8—20% 牛型デアアル故若シ第三期結核ガ初感染ノ續キナラバ此ノ時期ニ就テモ同程度ノ頻度ヲ現ルベキデアアルガ事實ハ甚ダ少ナイ。唯重感染ハ初感染ノ如キ特有ノ型ヲ有シナイタメ確實ニ證明スルコトガ出來ズ想像セラレルノミデアアル。

次テ著者ハ結核感染ノ一般的事實ヲ述ベタリ。即結核感染テハ絶對的免疫ガ發生シナイノテ外部的再感染ニ當リテハ

(1) 出來上ツタ免疫ノ強サト

(2) 入ツテ來タ菌數ト

(3) 當該部ノ組織ノ結核結合性ノ如何ニ關係ガ有ルトイフ。カ、ル立場カラ生殖器結核ノ外部的再感染ノ可能性ヲ考ヘテ見ルトキハ、第一ノ因子ニハ明カナ規準ガ無シ、第 2 ノ因子ハ該婦人ガ男子ト交渉ヲ有シ、第三因子ニ就テハ、外陰部テハ扁平上皮及腔内内容物が結核菌ノ侵入ニ對シ抵抗ヲ有スル事ガ考ヘラレル。タト子宮腔部ニハ「エロジオン」ガアルノテ「Locus minoris」トナリ得ルトイフ(Vogel, Neuwirth)然シナカラ如何ニ交接ニ依ル傳染ガ考ヘラレテモコレニ依

ル生殖器ノ再感染ハ其レ程屢々來ルモノテナイ。シカシ指或ハ器物ニ依ル傳染ヨリハ多イ。著者ハ子宮腔部結核ト、孤立シテアラハレル生殖道下部ノ結核ハ、外生殖器ヲ通ジテ菌が侵入サレタモノト考ヘ度シト述べ、カハル例數例ヲ舉ゲタリ。

高位ノ生殖器ノ外部性再感染ハ不可能デアルト考ヘラレテ居ルガ内部の再感染が考ヘラレル以上外的性再感染ヲ否定シ得ナイ。殊ニ子宮デハ月經時ニ創面ガ出來傳染スル危險ガアル。コレハ動物實驗デモ證明セラレテ居ル(Granzow ハ重感染 50% 初感染 6% ノ成績ヲ得タ)、Heynemann ハ之ハ動物ガ尙免疫的ニ反應ガ陰性ノ時期ニアルカラデアルト説明セリ。此ノ點カラ考ヘルト原發性或ハ潜伏性生殖器結核ハ肺又ハ腸ニ於ケル初感染ガ消失シ證明セラレナクナツタ場合ト考ヘテ宜シイ。

而ラバ何故婦人性器ノ肺又ハ腸ノ如ク外界ト交通ヲ有スルニ拘ラズ生殖器結核ガ少ナイカ、コノ原因トシテハ身體ガ結核ト接觸スル迄生殖器ハ比較的外界カラ遮斷サレ完全ニ機能ヲ休止シテ居リ、機能が發揮セラレル頃ニハ既ニ他ノ部分ガ結核ニ感染シ、唯外部の再感染シカ問題ニナラナイノデアル。

内部の再感染、理論的ニハ外部的ニハ、對等テ實際ニハ勢力ヲ有スル、古キ病竈カラ再感染ニハ三途ガ考ヘラレル。(1)血流、(2)淋巴、(3)傳播性

(1)呼吸器ニ初感染ヲ有シ80%トイフ。Kaffka ハ血流性感染ハ腹膜カラ骨盤ニ向ツテ減少スル。即卵巣卵管子宮ノ順ニ減少スルトイフ。(2)ハタマ腸結核アルトキ問題トナル。(3)腹膜炎アルトキ。即腹腔ハ結核性物質ハ腸ノ蠕動テドウグラス氏腔ニ落サレ、コレハ結核ニ罹リ易ク又此處ニ開口スル卵管モ結核ニ罹リ易イトイフガ卵ヲ吸引スル作用ガアル故トテ直チニ結核菌ヲ吸引シ易イトハ考ヘラレナイ。

豫 後

生殖器結核ガ未ダ明カテナイ爲此ノ點ニ付イテモ明

カテナイ。若シモ Albrecht ヤ Simmonds ガ考ヘタ如ク性器結核カラ腹膜炎ガ起ルト考ヘルトスレバ豫後ハ好クナイ。

次ニ著者ハ生殖器各部分内ニ於テモ同様ノ傳染路ガ考ヘラレルト述べタリ。

治 療

以前ハ手術、次テ「レ」線 5—10—15% HED ガ用ヒラレタ。コノ量ハ卵巢量ヨリハ遙ニ少量デアル。然シ著者ハ一般療法ノ一ツトシテノ日光療法ヲ推獎セリ。コノ理由トシテハ Rolliers ノ考ヘニ依レバ皮膚ノ充血ニ依リテ内部臟器ノ鬱血ガ減少シ、苦痛ガ減少スルトイフ。又コレニヨリテ浸出液及癰痕ノ吸收ヲ促ス。Jesionek ニ依レバ日光空氣浴ガ刺戟的ニ作用シ皮膚ノ實質細胞ニ充血ヲ惹起シ衣服ヲ著用スレバ再ビ消失スル。而テ實質細胞ガ抗結核菌性、溶結核菌性ノ代謝產物ヲ内部臟器ニ送ルトイフ。

此處テ著者ハ日光浴、手術、及日光浴ト手術トヲ結合シテ行ヒタル例ヲ數例舉ゲ結論トシテ手術日光浴トモ殆ド同率ノ治癒率ヲアゲ殊ニ日光浴ニ於テハ妊娠ヲ起ス可能性アリト唱キ、更ニ危險最モ少ク、最モ簡單ナル方法トシテ推獎セリ。(名大婦人科 西尾研抄)

子宮腔部結核症例

松尾伍郎(大阪女醫專產婦人科): (産科婦人科紀要第十九卷第七號 1479 頁)

著者ハ 21 歳ノ家族歴ニ結核ヲ證明シ、白帶下ノ増加、不正出血ヲ主訴トシ、内診的ニハ子宮腔部ニ翻花狀ノ腫瘍ヲ發見シタル未產婦ニテ診斷の切除片ニテ結核ノ診斷ヲ付ケ得タル 1 例ニ就テ報告セリ。

治療法トシテハ子宮別出術ヲ行ヒ各部ノ組織標本ノ檢鏡ニヨリテ i) 右側結核性卵管炎 ii) 結核性子宮内膜炎 iii) 乳嚙狀ヲナセル子宮腔部結核 iv) 子宮發育不全症ノ診斷ヲ下シ得タリ。

(名大産婦人科 西尾研抄)

一 般 學 術 雜 誌

Auro-Detoxin ニヨル紅斑性狼瘡治療

Irene Engel: (Med. Klin. Nr. 25, 809, 1936)

Auro-Detoxin(金含有量 12.5%)ノ筋内注射ニヨリ 2 例ノ紅斑性狼瘡ヲ治療セシメタ。即チ初回量ヲ 0.1g トシ、毎 3 日ニ 0.1g 宛増量シ 1.0g ニ至リテ再ビ漸

減スル。但シ Auro-Detoxin ハ 10% 水溶液ヲ用ヒテキル。著者ノ 2 例ハ治療後 8 ヶ月ニシテ未ダ再發ノ兆候ナク、殊ニ其ノ 1 例ハ 7 年來ノ頑症デアリ、從來ノ他ノ全テノ療法ガ無効ナリシモノデアル。

(大里内科、倉重抄)

眼科領域結核症ニ對スル特異性並ビニ非特異性療法

E. Klauber: (Med. Klin. Nr. 41, 1398, 1936)

著者ハ眼科領域ニ於ケル各種眼疾患ニシテ其ノ本態ノ結核性ナルモノ極メテ多キコトヲ縷述シ、現今ニ於ケル重要ナル特異性療法トシテハ依然トシテ Tuberculin 療法ナリト述べ、Tuberculin 量ハ量的ニ慎重ヲ期セム爲、皮下又ハ皮内ヲ選ブベシトナシ、初期ハ1週1乃至2回トシ漸次間隔ヲ廣メ、結局1月1回位トスル。併シテ可及的年餘ニ互リ持續スルヲ可トスル。治療効果ハ重症ナラバ1週日後ニ認メラレ、從ヒテ幾分ノ時間的經過ヲ必要トサレ。然ルニ眼症状ニシテ急激ニ惡化スルモノ眇カラズ(浸潤缺壞、瞳孔閉鎖、網膜損傷其他)、必然非特異性療法モ考慮セネバナラナイ。之ニ對シテ著者ハ、Methallotherapie ヲ推奨シ、水銀、蒼鉛、「カルシウム」等ハ金鹽製劑ニ匹敵スルト述べ、例ヘバ HgCl₂ ノ $\frac{1}{2}$ cg ヲ葡萄糖液トシテ、又ハ Calciumgluconat ヲ用フル。即チ非特異性療法ニヨリテ急性症状ヲ阻止シ、同時ニ施行セル特異性療法ニヨリ充分ノ效果ヲ期待シ得ルトイフ。併シテ Röntgen 療法始メ局所外用藥物或ハ光線療法等ハ著者ノ併合療法ノ拒否サレシ場合ニノミ始メテ考慮セラルベク、本療法ヲ以テスレバ、大多數殊ニ重症ナル場合ニ於テモ效果ヲ認メ得ル。

(大里内科 倉重抄)

所謂 Tuberkulose-Lymphe ニヨル治驗

H. v. Hayek: (Med. Klin. Nr. 40, 1363, 1936)

著者ハ Böhme 教授ノ所謂結核淋巴液 Tuberkulose-Lymphe ニヨル肺結核症ノ治療の效果ニ就イテ述ベテキル。Tuberkulose-Lymphe トハ瑪瑙乳鉢ヲ以テ人型菌培養ヲ磨碎シ、此ノモノヲ食鹽水ニ浮游セシメタルモノデアリ、作製後25日以上ヲ經過セザルモノデアル。本療法ハ該液0.1cc乃至0.2ccヲ上膊又ハ大腿部ノ皮内(嚴密ニ)注射シ、6—14日間ノ間隔ヲ置キ、毎回注射部ノ體側ヲ變更スル。

著者ハ臨牀例122例ニ就イテ、肺病竈ノ性状ニ從ヒ之ヲ4群ニ分チ、各群ニ就イテ治效成績ヲ詳細ニ觀察シ、其ノ結果ヲI→IV度ニ分類シ、次ノ如キ成績ヲ得テキル。即チ進行性ノ惡性肺結核症ニハ效果ヲ期待シ得ナイガ、重症ニ屬スル慢性結核症(人工氣胸等ノ施術ニテ良果ヲ得ザリシモノヲ含ム)ニ對シテハ最

モ有效ニ作用スル。本療法ニヨル副作用ハ極メテ僅微ニシテ熱發ヲ見タルモノ1、2ニ過ギズ。局所反應ハ少数ニテノミ輕度ノ一過性浸潤ヲ認メシメルガ、概シテ局所反應ノ強烈ナル程治療の效果ノ優秀ナルコトヲ證明シテキル。結核生菌ノ療法ハ一方ニ於テ、預防禦力ヲ有スル結核個體ノ特殊ノ抵抗ヲ亢進セシムルヲ目的トシ、他方ニ於テハ肺臟外結核病竈ノ存在ハ肺結核ノ經過ニ對シテハ概シテ好響ヲ與ヘツ、アル經驗的事實ニ立脚シテ企圖サレツ、アリ、本療法ニヨリテモ亦該個體ニ對シ更ニ有力ナル抵抗力ヲ賦與セシメ得タルモノト説明シテキル。(大里内科、倉重抄)

結核菌ノ培養の證明ニ就テ(第三報)

滲出性肋膜炎ニ於ケル結核菌檢索成績追加

内藤誠一(臺北帝國大學醫學專門部細菌學教室): (臺灣醫學會雜誌、第35卷、第9號、昭和11年9月)

著者ハサキニ Besredka 氏法ニヨリ培養ヲ行ヒタル46例ノ成績ヲ昭和9年7月ノ本誌ニ報告シタルガ、今次、Kirchner 氏ノ第一法中ノ「アスバラギン」ノ代リニ味ノ素ヲ使用セル廣木占部兩氏ノ變法ヲ更ニ血清ノ混加ヲ省略シテ培養セル急性肋膜炎50例ノ穿刺液内結核菌證明成績ヲ報告セリ。

使用セル培養基ノ組成ハ次ノ如シ。

第1 磷酸加里	4g	第2 磷酸曹達	3g
硫酸「マグネシウム」	0.6g	枸橼酸曹達	2.5g
味ノ素	5g	「グリセリン」	20cc
蒸留水	1000cc		

之ヲ振盪混和完全ニ溶解セシ後エルレンマイヤー氏「コルベン」ニ50cc宛分注シテ100°C 30分間宛3日間間歇滅菌法ヲ行フ。

之ニヨリ50例ノ滲出液中ヨリ41例(82%)ニ結核菌ヲ證明セリ。而シテ單純漿液性比重1010内外ノモノニハ結核菌ヲ檢出スル事少ク、漿液纖維素性又ハ血性ヲ帶ビ潤濁シテ比重重キモノニハ殆ソド凡テ檢出シタリト云フ。

本培養基ニ就イテ Besredka 氏培養液ニ比較シテ雜菌ノ發育少ク且ツ發育菌塊ヲ發見シ易キ點ガ優リ、又脊髓液、腹膜滲出液等ヨリ結核菌ヲ培養の證明スルニ用ヒテ優秀ナリト云ヘリ。(臺北大 伊藤抄)

結核ノ臟器分布ニ關スル病理解剖學的觀察

内田長平(臺北帝國大學醫學部專門部病理學教室):

(臺灣醫學會雜誌、第35卷、第9號)

過去11年間臺北醫學專門學校病理學教室ニテ解剖セ

シ死體中結核ヲ有セルモノ 220 例ニ總テノ調査ニシテ、是等ハ肺臟ニ現時或ハ過去ニ病變ヲ有セシモノテ肺臟ニ病變ナクシテ他ノ臟器ニノミ結核ヲ有スルモノハ 1 例モナシ。

臺灣人ノ例數ハ少數ニテ統計的考察ヲ下シ難キモ大體ニ分布ノ頻度ハ内地人ト大差ナシ。

年齢別ニテ年少者ニ初感染者多ク又轉移數多シ、年長者ハ轉移數少ケレ共、年長者ニテ初感染ノ場合ハ著明ナリ。

性別ノ差ヲ認メザリシモ生殖器結核ハ女子ニ多ク、男子 7.8%ニ對シ女子 31.4%ナリ。

肺結核分布ハ殆ソド凡テノ臟器ニ互リ、其頻度ハ肺門腺、腸、腸間膜淋巴腺ニ多ク胃粘膜、脾臟及ヒ心臓ニハ少シ。

肺臟ニ結核アリテ他ノ臟器ニ分布セルモノ 186 例(86.0%)、此ノ内、活動性病變 183 例(96%)、非活動性病變 6 例(3.6%)、初感染ト思ハルモノ 10 例、此ノ中 2 例ハ肺門腺ニノミ轉移シ、8 例ハ何レモ多數ノ轉移ヲ認メル。

肺臟ニ病變アリテ他ノ臟器ニ分布ナキモノ 31 例(14.0%)此ノ内、活動性病變 21 例(11.0%)、非活動性 10 例(6.3%)。(臺北大 伊藤抄)

實驗的結核ニ於ケル「オキシダーゼ」量ノ消長ニ就テ

保野正之(長崎醫學會雜誌、第十四卷、第七號、昭和 11 年 7 月)

結核病變ニ於ケル白血球ノ意義ハ特ニ竹内教授ノ結核組織學的發生機序ニ於テ重大視サレテキル事デアアル。即チ結核菌侵入ニ應ジ白血球性反應所謂白血球性病竈ヲ生ジ之ヨリ種々ノ要約ニ依リ上皮様細胞結節或ハ乾酪比、空洞形成等ヲ來スト云フノデアアル。ヨツテ著者ハ白血球出現ノ時期並ビニ量ノ消長如何ヲ窺知スベク實驗的筋結核病竈ニ就テ筋組織並ビニ白血球性「オキシダーゼ」顆粒ノ量ヲ新鮮組織及ビ固定組織ニツキ Vernon 氏法ニヨリ比色計量シ以テ「ラビーレ」及ビ「スタビーレ」、「オキシダーゼ」量ノ増減ヲ計量シコレニ依テ白血球量ノ消長ヲ推量シ次ノ結果ヲ得タ。

菌接種後 1 時間ニシテ病竈ハ既ニ多量ノ「オキシダーゼ」量増加ヲ來シ特ニ「スタビーレ」、「オキシダーゼ」量ノ増加著シイ、換言スレバ白血球ハ著シク遊出スル。結核病變進行スルニ從ヒ筋ノ「ラビーレ」、「オキ

シダーゼ」量ハ減少スルニカ、ハラズ、白血球益々増加スルヲ以テ結核竈全體ノ「オキシダーゼ」量ハ増加ノ儘比較的長ク減少シナイ。第 2 日ニ及ビテ白血球破壊ヲ見ルニ及ンテ「オキシダーゼ」量ハ次第ニ減少ニ赴ク。

以上ノ事實ハ竹内教授ノ説述サレタル結核竈ニテハ白血球早期ニ多量出現シ第 3 日頃ヨリ破壊ニ赴クト云フ事ヲ確實ニスルモノデアアル。(長大 保野抄)

結核性炎衝竈ノ色素吸著度並ニ其ノ發生機轉ニ就テ 第一ニ初感結核性炎衝竈ノ色素抑留作用ニ就キ

大井手辰志(長崎醫學會雜誌、第十四卷、第七號、昭和 11 年 7 月)

家兎ヲ用ヒテ腹壁皮下ニ廣範圍ニ互リテ菌注射ヲ行ヒテヨリ 12 時間後ヨリ 3 週間ニ及ブ各時期ニ於テ竈内ニ注入セル色素ノ血行移行量ヲ時間的ニ檢セルニ起炎 12 時間ヨリ 48 時間ニ至ル急性炎期即チ多核白血球性膿瘍出現初期ニハ血行移行量極メテ僅量ニシテ、即チ病竈ノ色素抑留力ハ著明ニ増強シテ正常ノ約 10 倍以上ニ及ブ。4 日後ヨリ 1 週、3 週ノ慢性炎期ニ至ルニ從ヒテ抑留力ハ次第ニ減力シテ正常ニ復歸ス。而シテソノ因テ來タル原因ハ炎衝竈血管ノ透過性ノ變化ニ依テハ説明不充分ナルヲ知り、更ニ該部組織ノ吸著力ヲ試驗管内ニ於テ檢セルニ前實驗同様充分ナル説明ヲ得ザリキ。依テ著者ハ炎衝特ニ結核ニ於テ必發的ニ惹起サル、組織蛋白質ノ凝固機轉並ニ炎性滲出液ノ滯溜ガ抑留作用ノ發生ニ關與スル事ヲ實驗的ニ知レリ。即チ炎衝竈ノ色素抑留作用ハ該部ノ組織蛋白質ノ凝固過程中ニ於ケル吸著現象ニシテ滲出液ノ滯溜ハ滲透壓ノ變化ヲ將來シテ色素ノ血行移行ヲ抑制スルモノナリ。

次ニ再感染ニ於ケル 12 時間ヨリ 24 時間後ニ於ケル色素抑留力ハ初感ニ比較シテ全クソノ趣キヲ異ニスルモノニシテ全ク抑留力ナク、且ツ正常ノ色素抑留度トモ時間的ニ全ク相違スルモノナリ。而シテ再感竈ノ抑留力減退ハ血管透過性ノ異常ナル亢進ニヨル處大ナリト思惟セラル。(長大 大井手抄)

結核病竈ニ於ケル「オキシダーゼ」顆粒ニ就テ

橋口孫一(長崎醫學會雜誌、第十四卷、第七號、昭和十一年七月)

結核病變ノ組織發生學上竹内教授、湊川氏等ハ白血球ヲ非常ニ重要視セラレ、特ニ白血球性病竈ナル組織像

ラ瘰癧結核組織病變ノ初期變化ナリト提唱セラレタリ。ヨリテ著者ハ結核組織像ヲ主トシテ顯微鏡の所見ニヨリ (1)白血球性病竈 (2)不完全乾酪化竈 (3)完全乾酪化竈 (4)上皮様細胞淋巴球浸潤竈 (5)結締織化竈ニ分類シ各組織像ニ於ケル「スタビーレオキシダーゼ」反應ヲ檢セシニ次ノ如キ結果ヲ得タリ。

「オキシダーゼ」顆粒存在部位ハ第Ⅰ全ク細胞原形質内ニ規則正シク核周圍ニ配列シ細顆粒像ヲ呈シ染色力又一様ナリ。第Ⅱ顆粒ハ大キサ不同ニシテ細胞原形質内ニ於テ顆粒數ハ減少ナシ、稍々淡染ス。第Ⅲ全ク細胞體外ニ遊離破砕シ粉粒狀ニ散亂セルガ如キ像ヲ呈スルモノ、三種ノ形態像ヲ見タリ。

白血球性病竈ニ於テハ主トシテ第Ⅰノ像ヲ呈シ不完全乾酪化竈ニ於テハ第Ⅱ第Ⅲノ混淆セルモノ、或ハ全ク第Ⅲノ像ヲ呈ス。完全乾酪化竈ニ於テハ第Ⅲノ像ヲ輕度ニ見ル事有リ。或ハ全ク顆粒像ヲ見ル事ナシ。上皮様細胞淋巴球浸潤竈、結締織化竈ニ於テハ全ク顆粒像ヲ見ズ。

即チ結核ノ病理組織學の反應ノ初期變化ハ白血球性病竈ニシテ多核白血球ノ干與ハ重大視スベキモノナリ、即チ結核ニ於テモ他ノ一般の炎症ト同様多核白血球ハ重要缺クベカラザルモノナル事ヲ知り得タリ。結核病竈ノ乾酪竈ニ空洞形成ニ於テモ多核白血球ノ參與ヲ重要視スベキ事ヲ知り得タリ。(長大 橋口抄)

肺結核病變ト結核菌所見トノ關係ニ就テ、其ノ統計的觀察

橋口孫一：(長崎醫學會雜誌、第14卷、第8號、昭和11年8月)

湊川氏ハ結核病竈ニ於ケル結核菌ノ數量、分布狀態ハ病機ノ經過移行ニ關シテ重要ナルモノニシテ結核病機發展ノ核心ヲナスモノナリト言フ。然ラバ肺結核病變ト結核菌所見竝ニ分布狀態トノ關係ニ就テノ統計學的研究モ重要ナル事ナリ。ヨツテ肺結核組織像ヲ顯微鏡の所見ヲ主トシテ白血球性病竈、不完全乾酪化竈、完全乾酪化竈、上皮様細胞淋巴球浸潤竈、結締織化竈等ニ分類シ、又結核菌ヲ菌分布狀態竝ニ菌形態像及ビ結核菌數等ヨリシテ、Ⅰ多數個々平等分布、Ⅱ不平等諸所群集、Ⅲ多數個々不平等分布、Ⅳ膨大破破、Ⅴ散見ノ型ニ分類シ肺結核組織像ト結核菌所見トノ相互關係ヲ主トシテ統計的ニ觀察セシニ次ノ如キ結論ヲ得タリ。

結核菌檢出數ハ白血球性病竈最モ多ク 85%ヲ示シ、

不完全乾酪化竈、完全乾酪化竈ハ著シク少ナク 41% 31%ニシテ上皮様細胞性結節ハ最モ少ク僅カニ 7%ナリ。結核菌繁殖像トミラル、第Ⅰ型、第Ⅱ型ハ白血球性病竈ニ於テ最モ多クシテ 70%及ビ 15%ヲ示ス。菌凝集破壞像トミラル、第Ⅲ型、第Ⅳ型ハ完全乾酪化竈及ビ不完全乾酪化竈ニ於テ最モ多ク前者ニ於テハ 25%及ビ 18%ヲ示シ後者ニ於テハ 21%及ビ 9%ヲ示セリ。上皮様細胞性結節ニ於テハ結核菌ヲ見ル事最モ少ナシ。(長大 橋口抄)

結核病竈ニ於ケル結核菌崩壞ニ就テ

保野正之：(長崎醫學會雜誌、第十四卷、第10號、昭和11年10月)

動物竝ニ人體結核病竈ノ白血球性病竈及ビ乾酪竈ノ塗沫竝ニ「ツエロイディン」切片ニ就キ「チール」染色ヲ行ヒ病竈内結核菌崩壞ノ經路トシテ次ノ如キ變化ヲ窺ヒ得タリ。

1) 漸次抗酸性消失淡染塗ニ消滅ス。

2) 多數ノ菌ハ凝集シテ集團トナリ、之ノ集團ノ各菌ハ融合狀トナツテ均等ニ赤染スル集團トナリ漸次抗酸性ヲ減少シテ淡染シテ行ク。時ニ「メチレンブラウ」ニテ青染サル、事アリ。又時ニ均等赤染物カ數ケノ小圓形赤染物ニ分タレ居ル事モアリ。凝集菌ハ均等赤染物トナル前ニ斷裂スル事多シ。又遊離分散セル菌モ破壞ノ過程トシテ濃縮、屈曲縮小、波狀形、斷裂、顆粒狀等ヲ呈シ抗酸性ヲ失ヒ淡染ス。

同様ノ所見ヲ實驗的ニ證明セントシテ塗沫セル培養菌ニ種々ノ操作ヲ施シ同様ノ均等赤染物、顆粒狀菌、淡染菌ヲ證明シ得タリ。

尙グラム染色ニテ菌凝集塊、均等赤染物均等青染物ハ全テ同一ノ像ヲ呈スル事ヲ認メ得タリ。

(長大病理 保野抄)

胸腺結核症ニ就テ

中曾根包吉：(十全會雜誌、41、9、2673)

本研究ハ病理解剖學の竝ニ組織學のニ、人體結核症50例(♂34例、♀16例、年齢8ヶ月乃至67歳)ニ於ケル胸腺結核症ニ就イテ檢索セルモノデアアル。

(1)結核屍50例中胸腺結核症ヲ證明シ得タルモノ9例ニシテ、此ノ頻度 18%ハ從來ノ記載ニ比シテハ著シキ増加デアアル。

斯ク胸腺ニ於ケル結核ノ存在ハ、從來考ヘラレシ程ニハ僅微ナルモノデアナイガ、多少ノ臟器免疫性ノ存在ハ之ヲ否定シ難イ。

(2) 上記9例ノ結核性病竈ハ總テ粟粒結節ニ屬シ、其ノ大サハ大多數ニテ顯微鏡的ノ微小ナルモノデアアル。即チ大結節性乾酪性結核ヲ形成スルモノヲ見ナイ。其ノ組織構造ヨリ觀ルニ、滲出型ニ入ルモノナク、乾酪化セル繁殖性結節ヲ認メシムルモノ1例。残り8例ハ何レモ増殖型結節デアツテ、内4例テハ中心部ニ乾酪變性ナキ定型的粟粒結節ヲ示シ、他ノ4例ニテハ

纖維性又ハ硝子様纖維性結核竈ヲ示シテキル。
 (3) 感染機轉(蔓延機轉)ヲ檢討スルニ、血行性ト思惟サルベキモノ6例、淋巴流逆行性ト見做スベキモノ3例デアアル。
 (4) 猶著者ハ、胸腺内ノ結核結節ヲ適確ニ檢索セムニハ、先ヅ臟器觸診法ニヨリテ組織片ノ採取部位ヲ撰定スル方便宜ナリト論ジテキル。(大里内科 倉重抄)

會報並雜報

○昭和十一年十二月中新入會者

- | | | | |
|-------|------------------|----------|-------------------|
| 崎山 嵩 | 西宮市今津高潮七七 | 山田 耐次 | 大阪赤十字病院呼吸器病科 |
| 小西 善造 | 東京市王子區稻付町三ノ八三 | 九州醫學專門學校 | 久留米市小森野町 |
| 阪口 直次 | 大阪府岸和田市野田町五〇九ノ一 | 俵 英夫 | 東京市築地海軍々醫學校高等科 |
| 田川 翔 | 大阪市西淀川區海老江上一丁目五七 | 川村 一男 | 福岡市九州帝國大學醫學部細菌學教室 |
| 森 茂 | 大阪市西淀川區海老江上一丁目五七 | 近藤 恂二 | 姫路驛前通 |
| 岩崎 基 | 大阪市西淀川區海老江上一丁目五七 | | |

○大阪ノ竹尾結核研究所二十週年記念講演會

開所以來20年「結核」ニ關スル學術進歩ノ上ニ多大ノ貢獻ヲナシテ居ル大阪ノ竹尾結核研究所デハ來ル2月1日大阪市朝日會館ニテ開所20週年記念講演會ヲ開催スル筈。

第14卷第10號 河田幸一郎論文正誤

頁	場 所	行	誤	正
78	歐文抄録	21	zur der Beurteilung	für die Beurteilung
”	”	29	”	”
79	”	17	”	”
”	”	22	1.0 ccm.	1.0 u. 2.0 ccm.
”	”	28	3.	4.
”	”	31	umöglich	unmöglich
”	”	32	4.	5.
”	”	36	5.	6.
”	”	38	Bofund	Befund
”	”	42	6.	7.
80	”	2	7.	8.
”	”	8	8.	9.
”	”	11	0.013	0.016
”	”	15	9.	10.
”	”	18	10.	11.